

文化・教養専門課程 総合学科

学科区分	共通選択の別	授業科目	第1学年 前期 授業時数	第1学年 後期 授業時数	第2学年 前期 授業時数	第2学年 後期 授業時数	授業時数 合計	授業方法	実務経験 のある教員 等による授 業科目
共通教科	共通	音楽業界概論	30	30	30	30	120	講義	○
		音響工学	30	30	30	30	120	講義	○
		音響実習	90	90	90	90	360	実習	○
		照明実習	60	60			120	実習	○
必修教科	総合音楽専攻	演奏技術	60	60	60	60	240	実技	○
		アンサンブル	60	60	60	60	240	実技	○
		音楽理論	30	30	30	30	120	講義	○
		音楽史	30	30			60	講義	○
		パソコン演習			30	30	60	演習	○
		イベント制作		32		32	64	実習	○
		業界研究	34	34	34	34	136	実習	○
		企画制作	30	30	30	30	120	実習	○
	総合スタッフ専攻	映像制作	60	60	60	60	240	実習	○
		照明実習			60	60	120	実習	○
		照明工学	30	30	30	30	120	講義	○
		パソコン演習	30	30	30	30	120	演習	○
		一般教養	30	30	30	30	120	演習	○
		イベント制作		40		40	80	実習	○
		業界研究	30	30	30	30	120	実習	○
		レコーディング実習			60	60	120	実習	○
選択 必修教科	総合音楽専攻 1科目選択	照明実習			60	60	120	実習	○
共通教科授業時数			210	210	150	150	720		
必修教科授業時数（総合音楽専攻）			214	246	214	246	920		
必修教科授業時数（総合スタッフ専攻）			210	250	270	310	1040		
選択必修教科授業時数（総合音楽専攻）					60	60	120		
卒業に必要な総授業時数（総合音楽専攻）			424	456	424	456	1760		
卒業に必要な総授業時数（総合スタッフ専攻）			420	460	420	460	1760		

シラバス

総合学科

総合音楽専攻

授業科目		授業時数
音楽業界概論		60
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
杉山 徹 ギターリスト、アーティストプロデューサーとしてレコーディング、ライブ演奏、イベント制作、写真撮影、映像編集など様々な経験を生かし学生の指導や育成をする。		
前 期		
到達目標		
音楽業界という業界への理解を深める		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	施設設備について	いろんな専攻が使用する施設・設備について見学を行い、その内容について概ねの理解を求めます。後に使用するスタジオ機材、学生が活用できるスタジオ・メディアレンタルについての説明も行います。
2	総合音楽I専攻カリキュラムについて	就職・デビュー両方に関する研究が重ねられたカリキュラムを説明していきます。担当される講師の紹介も含め、総合音楽専攻全体の紹介となります。
3	技術系専攻等について	音楽をやっていく上で、色んなスタッフの協力を得ることになります。自分たちの専攻以外に、どのような内容のものがあるのかをしっかりと知ってもらい内容となります。
4	ミュージシャンについて①	「音楽がやりたい」という最初の気持ちを忘れず、音楽をしていく人として「ミュージシャン」という生き方を知ってもらいます。担任が、いろんなケースを紹介してくれます。
5	ミュージシャンについて②	音楽活動をしていく過程において、色々なものに遭遇していきます。人の繋がり、楽器との出会い、バンド活動スタート、解散、技術スタッフとの関連、プロモートや制作関連の人たちとの関わりに気づいてもらいます。
6	スタッフについて	音楽業界で働くには、考え方や技術の向上が不可欠です。そのために「裏方でアーティストをさせる」という考え方を知ってもらいます。失敗、挫折、復活の繰り返しで先が見えていきます。
7	楽器について①	身近なLM楽器。Guitarの構造や各モデル事の音色の違い、有名なギタリストについて学びます。
8	楽器について②	身近なLM楽器。Bassの構造や各モデル事の音色の違い、有名なベーシストについて学びます。
9	楽器について③	身近なLM楽器。Drumの構造や各モデル事の音色の違い、有名なドラマーについて学びます。
10	楽器について④	身近なLM楽器。Keyboardの構造や各モデル事の音色の違い、有名なキーボーディストについて学びます。
11	コンサートPAについて	PA(パブリックアドレス)、SR(サウンドリフォーセメント)という内容や、常設のライブハウス、トラックでの搬入作業を伴うコンサート等、実際の音響関連設備等について学ぶ。
12	ライブ・イベント	学校の中でも開催されるライブイベント。さて自分たちが、出演者側や裏方側になった時にどうしているのかを勉強します。募集・応募・出演依頼・提出資料・プロフィール・セットリスト・当日進行確認・リハ・本番等の流れを知りましょう。
13	ライブハウス	だれもが分りやすい「ライブハウス」でのライブイベントの勉強をします。対バン、チケット、セットリスト、ステージ進行、MC、音楽以外にも、いろんな要素が出てきます。
14	前期試験	1～13までのペーパーテスト
15	テスト返却と解説	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
学内施設&設備、カリキュラム、他専攻との関わりやその内容の理解を深め、ミュージシャンとしてスタッフとして雑学的に知ってもらいたい内容等も勉強します。実技で学習する楽曲に対しての対比や同類の紹介、楽器のしくみ音楽の考え方を吸収します。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
音楽活動と音楽そのものへの理解を深める	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	前期総括内容 前期1～14までの復習をもう一度行います。
2	レコーディングについて ここでは、一般的なレコーディング作業の流れを解説します。データ、リズム録り、オーバーダブ、ボーカル録り、コーラスetc等、人やタイミング、時間によって作業手順も変わります。
3	イベント関連 「イベント」というカテゴリーについて勉強します。コンサートやライブは、音楽を中心としたイベントですが、世の中には、この言葉で沢山の催事が繰り広げられます。
4	集客・動員について ライブ活動を中心に考えると早いうちに理解が必要になる項目です。営業的な観点にたったライブ活動は、デビューに近づける第一歩でもあります。
5	音楽業界のしくみ 第一段階として、基本的なプロダクション、レコード会社、音楽出版から成り立つ音楽業界の仕組みを勉強します。
6	音楽について① 現在、J-POP等でヒットしているものを取り上げてみます。みんなの好きそうなボーカリストやバンド、5年前と比べてどう変化しているのかを考えてみます。
7	音楽について② 人気ある夏フェス等で活躍する3ピースバンドをピックアップします。楽曲の良さ?、パフォーマンス?いろんな角度でみんなが感じるものを発表しましょう。
8	音楽について③ アンサンブル等で取り上げる楽曲について、その歴史背景に触れていきます。その影響を受ける日本の曲等が参考になれば、より理解が深まります。
9	音楽業界の歴史 音楽業界のかたちは、最初にだれかが作ったものではなく、アーティストたちが自分たちの活動をどうしていくのか、どう知らせていくのか、どう食べていくのかということから発生。それが、後に仕事として大きく組織化されていったものです。
10	音楽業界の変化 皆さんは、音楽や音楽情報をどう知り得ていますか?そして、「音楽」をどういうかたちで買っていますか?やはり、メディアから考えると変化しないといけないですね。
11	宣伝・PR・媒体について 一般的なプロモーション手法について勉強します。フライヤー・ポスター・雑誌掲載等、視覚効果的なものや耳から入ってくるもの、またはSNS等も大きな媒体効果を発揮していきます。
12	音源制作について 自分個人またはバンドで音源を作っていきます。自分たちのプロモーションや販売も視野に入れて、まずは第一弾を作るために、どうしたらいいのかを学びます。
13	著作権① まずは、簡単に作詞・作曲等の印税となる内容や、アーティストの権利を学びます。
14	後期試験 1～13までのペーパーテスト
15	テスト返却と解説

授業科目		授業時数
音響工学		60
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
豊島 芳樹 ホール音響、音楽録音、ラジオ番組制作、設備・メンテナンス等あらゆる形態の音響現場を経験しており、それぞれの形態を詳しく教授する。		
前 期		
到達目標		
●音に関する基礎知識の習得 ●スピーカーやマイク、コンソールなど機器の知識		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	音の伝達 音源から媒質(空気等)を伝わる理屈を知り、様々な媒質での音の進み方の違いを理解する。	
2	音の三要素 音量、音程、音色の特色を知り、音色を形作る波形、倍音構成、エンヴェロープを学ぶ。	
3	音の回折と屈折 音速、周波数特性、音程による屈折率の違い、気温変化による屈折の原理を理解する。	
4	音場とアンビエンス① 空間での音の進み方や反射による反響と残響の違いを学びます。	
5	音場とアンビエンス② 吸音率を学び、部屋の音の響きを考える。また、自然空間でのリバーブを考察する。	
6	ステレオとモノラル・立体音響 イメージシートを用いて立体感を感じる感覚を持つ。そして、疑似ステレオとモノラルの違いを理解する。	
7	音響心理効果 ドップラー効果やマスキング効果、カクテルパーティ効果、ハース効果、ピッチ効果(メル尺度)等の心理的效果について学ぶ。	
8	小テスト 1～7の音響基礎の内容から出題する小テスト実施	
9	音響機器① マイクロフォン マイクروفンの構造と動作原理、周波数特性、指向性、感度等の特性を理解します。また、近接効果等の使用例やコネクタとバランス回路を学びます。その他に特殊マイク、ダイレクトボックスについて学びます。	
10	デシベル① 基本的な単位としての意味や成り立ちを勉強します。そして計算方法、基準レベル等の実際の使用を理解していきます。	
11	デシベル② デシベルの計算練習や誤差の理解をしていきます。基準電圧、基準レベル、機器接続時の注意点を学びます。	
12	音響機器② パワーアンプ パワーアンプの特徴と種類、そしてランク、保護回路、DF等について講義を行います。	
13	音響機器③ スピーカー ダイナミックスピーカーの動作原理を理解していきます。ユニットとエンクロージャー・マルチウェイとネットワークについて学んでいきます。	
14	前期筆記試験 前期1～14週の内容の筆記試験	
15	成績発表 試験内容の解説とFOLLOW	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
音響エンジニアにとって必要な知識を講義形式で学びます。「音響映像設備マニュアル」を用いて、音の基礎から用語の解説、実際に現場で使用する機材の概要や構造を学習します。また、デジタルコンソールやレコーディングに関する基礎知識を学び、実際の現場で使える生きた知識を習得します。＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:音響映像設備マニュアル	
後 期	
到達目標	
●エフェクターに關しての基礎知識の習得 ●アナログとデジタルの違い、使用方法の習得	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	回路と電位差 音響エンジニアとして電気に関する知識を学びます。①電圧、②電流、③抵抗、④電力の理解をしていきます。
2	オームの法則 オームの法則を再度認識を深め、直流回路における抵抗器の働きについて学びます。
3	オームの法則を用いた計算練習 直流回路での合成抵抗計算、分圧と分流、電力量の計算を行います。
4	Effectorについて① ミキサーにおけるAUX回路、INSERT回路の理解。PreとPostの違いとその使用例を紹介しします。そして、ここ数週間に学ぶエフェクターの分類を行います。
5	Effectorについて② 周波数系エフェクターとして、イコライザの種類と特徴を理解してもらい、その使用方法例を説明します。
6	Effectorについて③ 空間系のリバーブとディレイの違いを理論的、数値的に理解します。そして、ディレイタイムの計算、リバーブパラメーターの解析をしていきます。
7	Effectorについて④ ダイナミック系エフェクターとして、コンプレッサー／リミッターの特徴と使用方法を学びます。エキスパンダー／ノイズゲートの特徴と使用方法も理解していきます。
8	Effectorについて⑤ 位相系エフェクターとしてフェイザー、フランジャー、コーラスの特徴を理解していきます。そしてミキシングでの使用方法も考えられるようにしていきます。
9	小テスト 電気・Effectorの内容から出題する小テスト実施
10	デジタルとアナログ① アナログとデジタルの違いや意味を理解していきます。そして、アナログとデジタル、それぞれの限界を知る。
11	デジタルとアナログ② A/D/A変換について学ぶ。サンプリング周波数と量子化ビット数の意味やアナログ機器とデジタル機器の違いを理解します。
12	デジタルとアナログ③ タイムコードとワードクロック、そして同期(シンクロナイズ)を理解していきます。
13	総まとめ 後期内容に加え前期内容と合わせた総括的なまとめ
14	後期筆記試験 後期1～12週を中心に年間内容の筆記試験
15	成績発表 試験内容の解説とFOLLOW

授業科目		授業時数
音響実習		180
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
原田 知実 小規模から大規模まで、あらゆる形態の仮設音響システムに精通、イベント形態を問わない豊富な経験を元に学生指導する。		
前 期		
到達目標		
●基本的な作業の理解と仕込みの習得 ●検定試験の合格 ●ミキシングにおける基礎の習得 ●ミキシング音源の作成		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1 PA イントロダクション	『PAとはいったいどういうことなのか?』その意味を理解し、心構えをしていく。 また基礎である、ケーブルの巻き方(ハの字巻き)の意味、方法、効果を理解し、その習得するため繰り返し練習する。	
2 ミキシング イントロダクション	ミキシングとは何なのかという概要を説明し、実習室にある機材の使用方法やマナーや心構えを説く。	
3 PA マイクについて	マイクの種類や使用シーンを覚え、また取り扱い方法についても開設する。 合わせて、マイクスタンド、小規模な現場で使用されるスピーカースタンドの組み立て方、取り扱い方も学ぶ。	
4 ミキシング 機材の説明、設定	授業で使用するミキサーなどの機材やソフトウェアの使用法や初期設定を行っていきます。 また、ミキサーの各パーツの説明も行い、ミキシングが始められる状態まで持っていけるよう、練習していきます。	
5 PA パワーアンプについて	PAの現場で実際に使用されているパワーアンプの接続方法を学び、どのような役割を担っているのかを理解をしていく。	
6 ミキシング EQの説明	ミキシングに必要なイコライジングについて、その役割や効果を説明していきます。	
7 PA マルチケーブルについて	マルチケーブルの仕組みと用途を学び、またそれをきれいに巻き取るための巻き方を習得します。	
8 ミキシング EQの使用	サンプルの楽曲を使用して、EQが実際どのように働くのかを学んでいきます。	
9 PA マイクのセッティング方法について	回線表に記載されているさまざまな記号の読み取り方を知り、それに合わせたマイクとスタンドがセッティングできるように習得していきます。	
10 ミキシング ドラムのミックス	ドラムのミキシングを行っていきます。 ドラムという楽器の特性を理解して、ミキシングの際必要なポイントを合わせて解説していきます。	
11 PA 検定①	今まで学んできた『マイクケーブル巻き・マイクスタンド立て・スタンド式スピーカ立て・マルチケーブル巻き・マイク識別』以上の5項目を決められた時間内にできるまで検定を受けていく。	
12 ミキシング 上モノのミックス	ドラム以外の所謂ウワモノ楽器の特徴を学び実際にミックスを行っていきます。 その際のポイントなどもあわせて解説していきます。	
13 PA 検定②	今まで学んできた『マイクケーブル巻き・マイクスタンド立て・スタンド式スピーカ立て・マルチケーブル巻き・マイク識別』以上の5項目を決められた時間内にできるまで検定を受けていく。	
14 実技試験	前期の学習内容より、実技試験を行います。	
15 ミキシング テスト返却 前期のまとめ	テストで出された各ミックスを聴き、今後の課題をフィードバックしていきます。	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技 実習	
授業概要	
音響機器の設営、操作やホール規模のPAの仕込み、チューニングなど実習します。またミキシングは1人1台のデジタルコンソールを使用し、音作りやバランス、エフェクター操作を学びます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:ヘッドフォン	
後 期	
到達目標	
●小規模システムの理解と実践(仕込み～バラシ) ●各エフェクターの基礎の習得 ●ミキシング音源の作成	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1 PA 舞台用語 ケーブルコネクタの種類	現場でよく使用される用語や装置の名称を用途とともに学び理解していきます。 また現場でよく使用されるケーブル、コネクタの種類と規格も合わせて学びます。
2 ミキシング 前期の復習 AUXとINSERTの使用法	前期の復習もかねて、授業で使用する機器の設定を行います。 また今後、エフェクトかけるうえで重要なAUXとINSERTの違い、使用方法、使用シーンを理解していきます。
3 PA ミキシングコンソールの基本 操作	ミキシングで学んだことに基づき、正しい車の操作手順を実践し、実際の信号の流れを確認し理解していきます。
4 ミキシング リバーブの説明・使用	リバーブの種類や使用方法、効果を学びます。 そして、ミキシングでかける際の設定、接続方法をサンプル曲を使用し実践しながら学んでいきます。
5 PA 小規模PA①	マイクからスピーカまでの信号の流れを「ブロック図」を用いて理解できるようになり、またその流れを簡単な「ブロック図」で表すことができるようになる。
6 ミキシング ディレイの説明・使用	ディレイの種類や使用方法、効果を学びます。 そして、ミキシングでかける際の設定、接続方法をサンプル曲を使用し実践しながら学んでいきます。
7 PA 小規模PA②	ブロック図に基づいての機材セッティングや配線ができるようになり、フロントスピーカ、モニタースピーカへの役割とその仕組みを実践しながら学んでいく。またBOX型のスピーカへのスタッキング(ラッシングを含む)方法なども習得していく。
8 ミキシング 2Trackの編集	バラチャネルでミックスしたものを2Trackにバウンスする方法を学び、またそこへのエフェクトのかけ方やコツを学びます。
9 PA トータルシステム①	今までに学んだ小規模PAシステムの復習として、マイク・エフェクター・フロントスピーカ・モニタースピーカなどをセッティングし、その結線方法と信号の流れを再確認する。
10 ミキシング テスト課題のミックス	今まで学んだ、ミキシングの知識、テクニックを生かして、課題曲のミキシングを行います。
11 PA 音出し	トータルシステムをセットアップした上で、そのシステムを使って実際に音を出し、結線が確実にできているか?などをチェックしていく。
12 ミキシング テスト	名前を伏せた状態でミックスを聴き、個人で採点をしていく。
13 PA グラフィックイコライザー・ チューニングについて	PAの現場における「グラフィックイコライザー」の役割とその必要性を理解し、それを使用したセッティングができるようになる。また、それを使用したスピーカのチューニング方法を知り、自分で行えるように練習していく。
14 ミキシング 成績発表 年間のまとめ	前回行ったミキシングの採点の結果をしていきます。 また、年間を通して行ったミキシングを振り返り、2年次のミキシング、PAにつなげていきます。
15 PA ラインアレイスピーカース テム	大規模なPA現場で使用する「ラインアレイスピーカ」を使用したシステムのセッティング方法を学び、その構造や特徴を理解する。また、グループごとにセッティングと回線チェックを行い、安全で確実なセッティング方法を習得する。

授業科目		授業時数
照明実習		120
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
川原 正弘 数々の舞台、イベント現場で照明を担当、新旧の機材に精通しており、特に初心者への教育には定評がある。自らの会社でも後進の育成に励んでいる。		
前 期		
到達目標		
●基本的な器具の扱いや仕込みの習得 ●検定試験の合格		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	オリエンテーション 校舎内に設置されるホールにおいて実習を行っていく。その作業での安全基準を説明、舞台機構や名所、器具の取り扱い方法を解説する。	
2	吊り仕込みの基礎① SUSでの吊り込み方法を学習、ハンガーや落下防止ワイヤー等、安全対策について理解をしていく。大まかな回路の仕組みについても勉強していく。	
3	吊り仕込みの基礎② SUS仕込みでの2又ケーブルを使用した回路取りを学び、仕込み図の記号や名称等も理解する。	
4	吊り仕込みの基礎③ SUS仕込みでの延長ケーブルを使用した回路取りを行う。	
5	吊り仕込みの基礎④ SUS仕込みでの延長ケーブルと二又を使用した回路取りを学習する。	
6	置き仕込みの基礎① 置き仕込みで使用するスタンドとオベタの取り扱い作業を行い、ステージ上に影響がある置物のケーブル処理をしっかりと理解する。	
7	置き仕込みの基礎② ハイスタンドの構造と器具のセッティング、配線方法を実践していく。	
8	シュート棒の使用 ステージ上の吊り器具に使用するシュート棒の操作方法やシュート時の指示と意味を理解する。	
9	CL・FRのシュート シーリングスポットライトとフロントサイドスポットライトの役割とシュート方法を実習する。	
10	吊り置き仕込み① 吊り仕込みから置き仕込み、シュートまでの一連の作業を行う。仕込みの手順など確認しつつ確実にできるように学習する。	
11	吊り置き仕込み② ↓	
12	ピンスポットライトの基礎① 1kwクセノンピンスポットライトの構造と操作方法、バルブの交換方法を学び、基本的な操作の練習をする。	
13	ピンスポットライトの基礎② ピンスポットライトの狙いの取り方、カットイン、カットアウトやフェードイン、フェードアウト等の違いを学び練習をする。	
14	模擬試験 企業研修見極め試験対策として実際の試験と同様の形式で模擬試験を行い作業の確実性とスピードアップを図る。	
15	企業研修見極め試験 企業研修見極め試験の実施	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技(実習)	
授業概要	
照明器具の取り扱いや実践に近い形での「仕込み」を学習します。また、調光操作卓の操作方法や楽曲とキューシートに合わせて、オペレートを行います。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:革手袋	
後 期	
到達目標	
●調光操作卓の基礎習得 ●オペレート実践	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	調光周辺機器について① 調光ユニット、D/Aコンバータ、調光卓の接続方法を説明、それぞれの器機の役割りを学ぶ。
2	調光周辺機器について② 調光操作卓を操作する中で一番基本となるフェーダーパッチとABフェーダーの概念を学習する。
3	調光周辺機器について③ 調光操作卓の機能にあるサブマスターフェーダーについて理解、RECや修正の仕方等を学ぶ。
4	シュート シュートする際の指示の出し方について理解していく。相手に伝えるためのコミュニケーション、確実な指示について勉強する。
5	仕込み～バラしまでの反復練習① 実際の現場と同じように、仕込み→パッチ→シュート→バラシという流れに沿った一連の作業を反復練習していく。
6	仕込み～バラしまでの反復練習② ↓
7	オペレート実習(アップテンポ)① 1曲内の照明演出に関するオペレーティングを行っていく。資料として使用されるキューシートの読み方等も同時に学習する。
8	オペレート実習(アップテンポ)② 先週と同じアップテンポの課題曲を使用。サブマスターフェーダーを使用しシーンを変えるタイミングやアオリ方などを学習する。
9	オペレート実習(アップテンポ)③ (学生個人が、実際にオペレートしていけるように指導していく。)
10	オペレート実習(スローテンポ)① 次にスローテンポの課題曲を使用。そのオペレートについて学習していく。曲構成を示すキューシート内容の理解も進める。
11	オペレート実習(スローテンポ)② 先週と同じくスローテンポの課題曲を使用。ABフェーダーを使用したオペレート方法を学習する。
12	オペレート実習(スローテンポ)③ (学生個々が、自分以外の演出にも学ぶポイントを探せるような指導をしていく)
13	後期試験対策 グループでの仕込み作業が、円滑に進むように個々が自分自身の立ち位置を考えながら動いていく。
14	後期試験 仕込み→パッチ→シュート→バラシという一連の作業やオペレーションに関する内容をレポート提出
15	1年間のまとめ 一年間で学習したことの復習及びFOLLOW

授業科目		授業時数
演奏技術		120
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
薄田 麻子 小、中、高での音楽教育から大手プロダクションでの豊富な指導経験をもとに確かな技術を教授する。		
前 期		
到達目標		
歌唱技術の向上 概要、及び指導内容に準ずる理解力と実践力の達成		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス&自己紹介 これから一緒に勉強していく仲間にも、判ってもらえる自己紹介をします。ステージに立つものとして、「人前で話すという行為」はとても大切なポイントです。	
2	個々の選択曲プレゼン カラオケデータの扱いも兼ねて、自分の歌い方がわかる選曲します。※毎回、トレーニング・発声・課題曲は、授業で行います。	
3	発声理論① 声帯等の構造と発声のメカニズムと学び、胸式呼吸と複式呼吸の違いも理解していきます。	
4	メンテナンスとウォームアップ ウォームアップの方法論を説明、実際に行ってみる。唄うための体幹を強化、ストレッチを理解していきます。	
5	楽器(弾き語り) 自分が唄うために自分の伴奏をします。そのために、ギターもしくは、ピアノを勉強、安定してコード進行を弾けるようにします。	
6	課題曲 ●邦楽ストレート8ビートMajorを基準に選曲をします。	
7	リズム 音感トレーニング 8/16ビートのリズムを理解するため、両手で膝を叩いてリズムを出していきます。左右がズレないよう工夫します。 また、音感のトレーニングのための音程差を理解するためのエチュードを行います。	
8	譜面について 実際のCメロ譜を見ながら、楽曲を追いかけていきます。逆に自分の課題曲を「ハコ譜」に戻してみます。	
9	課題曲チェック ●邦楽16ビートを基準に選曲をします。	
10	発声理論② 「身体が楽器」というボーカリスト。発声時の基本的な姿勢の確認しながら姿勢の矯正等を行います。より声の出やすいポジションを意識しましょう。	
11	楽器(弾き語り) 自分の伴奏ができるように、ギター、ピアノを勉強します。安定してコード進行を弾けるようにしましょう。	
12	課題曲分析 選んだ課題曲の分析を行います。自分の知っている知識で、曲構成・歌詞・コード進行・メロディ等の理解度を確認するための分析を発表します。	
13	課題曲チェック 【リハーサル】時間をかけて、各自の前期課題曲のうち、2曲を10分ステージとしてMCを入れて発表します。	
14	前期試験 【本番】	
15	FOLLOW 前期の状況を確認して後期に対しての課題を申し渡します。	

授業の方法	
講義・演習・実験(実技)実習	
授業概要	
歌唱・演奏技術に関する基礎的な反復練習を行い、無理なく実際の演奏に応用できる技術を養います。演奏するための持久力や安定性を高め、読譜や発想にも力を付けていく内容です。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
歌唱技術の向上 概要、及び指導内容に準ずる理解力と実践力の達成	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	後期ガイダンス&自己紹介 再度、入学時と同じように自己紹介を行います。ボーカリストにとってMCは、絶対的に必要な内容となりますので、自分の強みのパターンを作っていきます。
2	オーディション対策 オーディションに対する対策を考えていきます。個人のキャラクターを優先してステージを作りたいと考えています。
3	プロフィール作成 この部分は、人生を左右する部分にもなります。写真撮影、プロフィール、テキスト等を含めて、自己の印象値をUPできることを考えていきます。※学校が作成する部分もあります。
4	課題曲 ●邦楽＝180～200程度の8ビート曲を基準に選曲します。
5	楽器(弾き語り) 自分が唄うために自分の伴奏をします。そのために、ギターもしくは、ピアノを勉強、安定してコード進行を弾けるようにします。
6	オリジナル曲 指定するコード進行を弾きながら、歌詞無しの歌を唄います。ハミングレベルですが、ハーブ等を使用しても結構です。
7	ピッチ・リズム 高さが合っているピッチ、基準ピッチまでの早さやベンド、ビブラートの基準位置等を理論的に理解します。リズムの感じ方のタイプを説明します。
8	発声理論③ 「マイク」に乗る／乗らない、声の大きさや圧力等、アマチュアとプロの違いをしっかりと理解しましょう。
9	課題曲 ●ゆっくりとしたテンポの邦楽Minor曲(バラード)を選曲します。これは、自分が伴奏できるレベルのものを選んでください。
10	リズムについて② リズムを声に出して、しっかり出す訓練をします。出音がハッキリできるよう何度も練習します。
11	楽器(弾き語り)&MC 弾き語り曲
12	指定曲 ●邦楽アカペラ課題曲 ※KEYは、自分で選択してください。
13	課題曲 ●アタック音もしくはシャウト音がある曲を選曲してください。
14	後期試験 【本番】時間をかけて各自課題曲と指定曲の2曲を10分のステージとしてMCを入れて発表します。今回は、1曲が弾き語り曲となります。
15	FOLLOW 総括として、個人の課題をそれぞれに話しますので、2年次は、そのポイントを克服できるように頑張しましょう。

授業科目		授業時数
演奏技術		120
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
板坂 裕子 サポートミュージシャンとしての音楽活動、エンターテインメント業界での業務経験があり、高等学校で演奏指導経験もあるという経歴を活かし、音楽業界を目指す学生たちを導いていく。		
前 期		
到達目標		
●指板上に対する音の把握 ●ペンタニックスケール ●メジャースケール ●マイナースケール ●コードの把握		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ギターフォームとチューニング 「ギターを弾く姿勢」は立つ・座るの2種類。ピッキング・カッティング、左手のフォーム等を考慮してストラップ調整をしながら自分の弾きやすいポジションを探します。そして、色々なチューニング方法を学びます。	
2	指板上の音の配置 開放弦の音の並びや基本となる“C”の位置を理解します。ギターは、同じ音の高さが複数ある弦楽器なので覚える工夫を考えていきます。★フィジカル 1.2.3.4/4.3.2.1./1.3.2.4/4.2.3.1./2.4.3.1等の順列組み合わせ	
3	ピッキング オルタネイトを基準に↑↓の繰り返しを単音SLOW→UPを行います。異弦にスムーズに移れる練習。また[メロノーム]を使用して合わせます。★Circle・Sweepの紹介	
4	基本コード△とポジション Root音が最低音になるオープン、セーハポジションで理解していきます。また[カポタスト]を使いKeyの理解をしていきます。レベルに合わせてコードチェンジを行います。	
5	ギターフレーズの概念 訳がわからなくても「弾ける」ギター。その手癖、指癖の理屈を少し教えます。決まり文句のようなフレーズもあるのでアンサンブル等で試みましょう。基本は「歌うこと」です。	
6	Major Scale① 5弦3F“C”～2弦1F開放弦を含むもの、5弦3F“C”～3弦5F～1弦8Fまでの2オクターブ等を中心とした指使いとポジション移動を覚えます [参考資料:Berklee モダンメソッドギター]	
7	読譜① 譜面に書かれている音符の読み方を学びます。ギターは2タッチなのでミス無く弾くことが非常に難しい内容になります。メロディはPentatonic/ Major Scale等を使用。	
8	読譜② 初見練習を行う。譜面→音の高さとリズムを知る→カウント認知→音名変換→ポジション認識→押さえる→ピッキングという工程を具体的に考えてみます。	
9	装飾音 ブリング・ハンマリング・トリル・チョーキング・スライド等の装飾的な音の出し方を学びます。またハーモニクス音についても学びます。(※コードトーンに向かう簡単なアプローチノート)	
10	アルペジオ コードを押さえたかたちで、6～1弦、1～6弦なめらかに弾く練習。コードチェンジをしながらアルペジオを繋ぎます。右手のピッキング角度に注意します。また指弾きにも少し挑戦します。	
11	エフェクト:歪み&揺れ 歪みを使ってリフやブリッチミュートを学びます。ピッキングで音の変化が最も判りやすい内容です。また、揺れる音を使ってアルペジオを弾いてみましょう。	
12	アンプチューニング ギタリストのスタイルにより大幅に違ってくるアンプチューニング。アンプの種類によってサウンドは異なりますのでMasterVol、T/M/B、Reverbの基本的なものを理解します。	
13	フィジカルトレーニング&カッティング クロマチックを中心にメカニカルな題材を用いてトレーニングを行います。メロノームの速度も↑させて練習します。(同弦長3度のストレッチも含める)カッティングでは8ビートも含めた16ビートカッティングを練習します。リズム譜を読みながら音の伸ばしや明確な歯切れ良いサウンドを目指します	
14	実技試験 1～13の内容を含んだ実技試験	
15	前期FOLLOW 質疑応答 ギター弦、ピック、シールド、エフェクター等についての補足事項	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技 実習	
授業概要	
歌唱・演奏技術に関する基礎的な反復練習を行い、無理なく実際の演奏に応用できる技術を養います。演奏するための持久力や安定性を高め、読譜や発想にも力を付けていく内容です。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
●コードに対してのスケールの応用 ●スケールを用いたアドリブソロ ●リズムに応じたバックイング ●単音でのピッキング ●スムーズなコードチェンジ	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	Pentatonic フレーズ① マイナーペンタトニックで作られているフレーズを練習します。リックフレーズ、8部音符、16部音符が混在するものを中心に練習します。
2	Pentatonic フレーズ② マイナーペンタトニックで作られている3連符を意識して弾きま。3連符の中を抜いたビート感を練習する目的もあります。3連UP/DOWNするフレーズも練習します。
3	4声コードのポジション ※sus4や分数コードも説明 トライアードに7thを乗せるボイスイングを色々なポジションを展開していきます。音名やコード構成音も順次理解していきます。Root音が必ずしも最低音にこないケースも出てきます。
4	Major Scale② Key=C から離れ、Key=G、FのMajor Scaleを練習します。変化記号の付く音、それが調性記号上の表現、ギター指板上の位置等も含んだかたちで理解したい。
5	読譜③ 譜面を見て、フレット上の指のかたちを創造しながら動いて行きます。多少の変化記号が入ってきます。
6	読譜④ コード表記もある12～24小節程度の一般曲の譜面を見ながら、止まらずに最後まで読めるように練習します。
7	Tension Chord ポジション 4声Chordに9thや13thの音を入れ込んだポジションを表します。その押さえ方を学び、カッティング、アルペジオ等を弾き、例題曲をもとにそのサウンドを確認します。
8	Major Scale③ 色々なKeyのMajor Scaleを考えながら弾いていきます。特に、“C”の上下となる半音ズレているKEY=B、D♭のRoot音の位置を意識します。
9	Minor Scale① Key=C の同音スケールとなるランドレミアソラのKey=Amのスケール練習をします。平行調の位置関係等の理解も含みます。
10	Pentatonic フレーズ③ マイナーペンタトニックに♭5を入れて、それらの音の仕組みを理解していきます。ひとつひとつのコードタイプに関わるのではなく、調性に属する強いフレーズのフレーム要素を理解していきます。
11	ブルース形式の進行 12小節のブルースアドリブを実践する。ひとりではアドリブ、ひとりではコードバックイングをするというかたちで練習。Minor Bluesからのアプローチが可能性高い練習。Major Keyも導入。
12	ブルースセッション 前回の授業の続きを行う。学生には、「唄うように弾く」という課題を与えるようにします。
13	モーダルなフレーズ & コーダルなフレーズ スケール上行下降、順列組み合わせ的なモーダルなフレーズ、コードトーンを意識した配列のフレーズという意識を持ちながら弾くようにします。
14	実技試験 後期1～13の内容を含んだ実技試験
15	後期FOLLOW 実技試験の振り返りと質疑応答 「好きなギタリストの、どんな部分が好きなのか??」という座談会

授業科目		授業時数
演奏技術		120
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
常田 悟 ソロパフォーマンスを得意とした演奏＆歌唱の音楽活動経験から、ベーシストを目指す学生たちに演奏技術を伝授していきます。		
前 期		
到達目標		
ベーシックなベース演奏技術と楽器知識を身に付ける		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	はじめに	TLルームの機能を説明 ベースの基礎知識としてチューニングの仕方や楽器のメンテナンス、ベースの構え方とフィンガリングフォーム(左手の構え方)を覚えます。
2	ピッキング	指弾き、一般的な2フィンガーピッキングについて、アポヤンドとアルアレイ奏法の違い、ピッキングポジションの違いによる音色への影響を知ります。また、ミュートについて考えていきます。
3	フィンガリングトレーニング	フィンガリングにおけるポジション移動、左手4本の指の動きをコントロールしていくためのノウハウから、日々のウォームアップエクササイズを紹介します。
4	フィンガーボードの把握	フィンガーボード(指板)上の音を把握していきます。 CDEFGABという音名表記、メジャースケールの音の間隔をフィンガーボード上で確認します。
5	ベースライン	スタイルとしてよくあるパターンフレーズ、ピッキングやフィンガリングに気を付けながら、3コードのベースラインを弾いていきます。
6	ピッキング	ピック弾き、ピックを用いてのピッキングについて取り上げます。ピックの持ち方、ピッキングフォーム、ダウンピッキングで違いを確認していきます。また、ピック弾きでオルタネイトピッキング(アップ&ダウン)の8&16の音価を表現。またオルタナ
7	リズムトレーニング	4分音符、8分音符、3連符、16分音符と拍を表現。テンポを維持してピッキング。ピック弾きと指弾きで同じように。
8	ベースライン	スタイルとしてよくあるパターンフレーズ、ピック弾きでガンガン攻めてみます。音価の組み合わせやシンコペーションも登場します。
9	フィンガリングテクニック	左手のコントロールで様々なテクニック表現。スライド、グリス、ハンマリングオン、プリングオフ、それぞれに名称があります。
10	スラップ	スラップ奏法の基礎、サムとブルの基本動作から実際にサウンドが出せるように。オクターブのフォームを体得していきます。
11	ベースライン	スラップ奏法を使ったベースライン。バスドラムとのコンビネーションやアクセントの活かし方、左手のテクニックとの組み合わせなど。
12	フィンガリングテクニック	いつもと違った左手のコントロールを必要とするテクニック。タイミングが難しい右手との動き。ナチュラルハーモニクスと人工ハーモニクス、レイキングを紹介。
13	実技課題	1～13週の内容を踏まえ、前期試験となる実技課題を提示します。
14	前期試験	課題による実技テスト
15	まとめ	後期に向け実技課題の振り返り。

授業の方法		
講義 ・ 演習 ・ 実験 (実技) 実習		
授業概要		
歌唱・演奏技術に関する基礎的な反復練習を行い、無理なく実際の演奏に応用できる技術を養います。演奏するための持久力や安定性を高め、読譜や発想にも力を付けていく内容です。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材:		
後 期		
到達目標		
フィンガリングの精度向上 演奏の持久力 リズム感の養成と聴感の発達		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	コードトーン	色んなタイプのコードの構造を理解、フィンガーボード上で把握します。メジャーとマイナーの3度と7度、増減を含めた5度。コードトーンを絡めたサンプルフレーズを弾いてみます。
2	ベースライン	スタイルとしてよくあるフレーズ、ブルージーな感じ。ランニングスタイルでスローなフレーズを弾いてみます。
3	スラップ	パーカッシブなサウンドを取り入れるスラップの奏法の紹介。両手のコンビネーションが複雑になってもリズムが乱れないように練習します。
4	課題曲	第3週の内容を含む有名曲フレーズを取り上げます。ベースリストを研究、「ファンキーな人々」。
5	課題曲	先週に引き続き
6	スケール	ペンタトニックスケールとブルースペンタトニックスケール
7	運指トレーニング	スケールのフラグメントを利用して運指をトレーニングをおこないます。3連符、16分音符。
8	ベースライン	スタイル別のベースライン、「R&Bな匂い」 定番フレーズ。サウンド研究 ジェイムス・ジェマーソン、ジェリー・ジェモット、ドナルド・ダック・ダン
9	課題曲	先週に引き続き
10	課題曲	先週に引き続き
11	ピッキング	フィンガーピッキングによる工夫(ピッキングコントロールも含む)を考えます。ベースをピッキングするさいの、速さや音量、複雑な動きをトレーニングする
12	課題曲	第11週の内容を含む有名曲フレーズの耳コピ。シンコペーション、弦移動、ポジション移動を必要とするフレーズを研究する。
13	課題曲	先週に引き続き
14	後期試験	後期に課題で取り上げた課題曲で実技
15	まとめ	2年次に向けて各自が取り組むことを考える

授業科目		授業時数
演奏技術		120
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
河上 正史 長年のドラム演奏歴の経験からロジカルでポイントをつかんだ細やかな指導ができる。		
前 期		
到達目標		
スティッキング・コントロールの習得 手足のコンビネーションの習得 リーディングによるスティッキングができる リーディング情報をドラム演奏表現へ応用できる		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	概要説明 年間を通しての授業の概要を説明していく。導入として、基本的なエクササイズの方法、やフォームのチェック、レクチャー、ドラム譜の記譜法、読み方などを解説していく。	
2	グリップ、オルタネートスティッキング 4分音符のオルタネートで行い、前回に引き続き、フォームの確認、また修正を行っていく。合わせてグリップの種類などを解説、そちらも合わせて修正していく。	
3	ストロークについてスティッキングコントロール 基本的な4つのストロークをレクチャーしていく、また叩き方の基本として、アクセント、イーブン、強弱を意識しコントロールしていき、合わせて、フットコントロールも解説実践していく。	
4	4分音符のリーディング 4分音符はクリック音と並行するので、わかりやすく説明していく。また、ドラミングは休符が一番大事なことであり、そこをしっかりと習得できるようトレーニングをしていく。	
5	8ビート系リズムトレーニング 8ビートのリズムパターンを中心としたコントロールの習得を行う。また、3点における叩き方をチェックし基本的なフォームのレクチャーを受けていく。	
6	チェンジアップアクセント 同じテンポでフレーズをコントロールしていく基本的なトレーニングをレクチャーしていく。また、16分音符のアクセント移動をレクチャーし、よりスティッキングコントロールができるようにしていく。	
7	4分音符、8分音符のリーディング 4分、8分の混合した譜面のリーディングを行います。併せて初見等のトレーニングも行っていきます。	
8	16分音符オルタネートアクセント、レスト 16分音符の手順を知ることにより、様々な状態の16分音符のパターンに対応できるようにする。またアクセント、レストも習得しバリエーションを増やしていく。	
9	シンコペーション 8分音符のシンコペーションを導入として16分、3連などと発展させて理解を深めていきます。またそれと同時に、手足のコンビネーションも行っていく	
10	楽器によるリーディング 今までスネアドラムを基準に行ってきたリーディングをドラムセットに発展させていきます。	
11	16ビート系リズムトレーニング 16ビートのリズムパターンを中心としたバリエーションを学び、そのコントロールの習得を行う。	
12	ルーディメンツ ドラムにおける基本であるルーディメンツの歴史、種類などを解説していき、簡単なものから実践をしていく。	
13	スティックワークのまとめ スティックワークのまとめとして、シングル、ダブルストロークを中心とした、8,16分系のリズムの総合コンビネーションを行います。	
14	前期試験	
15	前期のまとめ、復習 前期のまとめ、復習を行い、また後期に行うものについての解説を行います。	

授業の方法		
講義 ・ 演習 ・ 実験 実技 実習		
授業概要		
歌唱・演奏技術に関する基礎的な反復練習を行い、無理なく実際の演奏に応用できる技術を養います。演奏するための持久力や安定性を高め、読譜や発想にも力を付けていく内容です。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材:		
後 期		
到達目標		
スティッキング・コントロールの習得 手足のコンビネーションの習得 リーディングによるスティッキングができる リーディング情報をドラム演奏表現へ応用できる		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	3連符のバリエーション 3連符のさまざまな休符のパターンを習得していきます。この際16分音符同様にオルタネートで行います。この際パターンにより、手順が交互逆になるので注意をしていきます。	
2	3連符のリーディング 8分音符で表現する3連系のリーディングでレクチャーします。オルタネート奏法で行うため、奇数なので、手順が逆になることに注意をします。また、タムへの応用も解説していきます。	
3	ロール・ルーディメント ロール系のルーディメントの中のさまざまなバリエーションについて、一つずつ解説、指導を行っていく。	
4	ロール・ルーディメント② シングル・ダブル・トリプルストロークロールについての細かな奏法や、注意点などを実践しながら、解説していく。	
5	6連符のリーディング 3連符の連続したフレーズと考え、リーディングを行っていく。また、休符、アクセントが繊細になるため、注意して指導していきます。	
6	16分音符のアクセント移動 1打ずつ丁寧に行っていき、16分音符におけるアクセント位置の習得と休符・レストの感覚を習得します。	
7	ドットッド・ノートリーディング ドットッド・ノートの解説行います。4分・8分・16分音符の読み替えについて、レクチャーの行います。	
8	ロール・ルーディメント③ 5-7ストロークロールまでを解説する。各ロールの手順をしっかり理解しドラムセットでも応用できるようにする。	
9	ロール・ルーディメント④ 9-17ストロークロールについて解説していく。各ロールの手順をしっかり理解し、また代表的なフレーズを紹介する。ドラムセットでの応用も行う。	
10	16分音符のアクセント移動 前回行った内容について、さらに深めていく。またドラムセットで応用できるフレーズも練習していく。	
11	タイノートリーディング タイノートリーディングについての解説。また4分・8分・16分音符のよみかえもレクチャーをしていく。	
12	ビートパターン 8BeatからSLOW ROCKまでのさまざまなパターンを勉強していきます。そこに対してのルーディメントの応用についてもレクチャーしていきます。	
13	譜面によるリーディング メロディー譜やスコア譜、ピアノ譜のヒヤリング・リーディングを行い、それに対するドラミングをレクチャーしていく。	
14	後期試験	
15	1年間のまとめ 年間で行った内容を振り返り、復習をしていきます。また2年次へつなげていくための導入も行います。	

授業科目		授業時数
演奏技術		120
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
名倉 学 多岐に渡る音楽キャリアを築いたその経験を活かし、ピアノ・キーボードの指導を行います。		
前 期		
到達目標		
●ペダル、ピッチベントの操作 ●一定の音域でコードチェンジできる ●ジャンルごとの基本的なバックギングパターン習得 ●アドリブ演奏への意識を持つ ●シンセサイザーの基本的知識の取得		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	音楽ジャンル別キーボードистについての考察	
2	鍵盤楽器の各音色と楽器の種類について	
3	PCM音源についての考察	
4	エレクトリックピアノについて考察	
5	ペダル、ピッチベントなどの基本的な使用方法	
6	運指とフォーム	
7	エレクトリックピアノについて習熟度の確認	
8	オルガンについて考察	
9	スタイル別のバックギングフレーズ	
10	オルガンについて習熟度の確認	
11	シンセサイザーについて考察	
12	ソロスタイルのフレーズ	
13	シンセサイザーについて習熟度の確認	
14	前期試験	
15	前期の復習及びまとめ	

授業の方法	
講義 ・ 演習 ・ 実験 実技 ・ 実習	
授業概要	
歌唱・演奏技術に関する基礎的な反復練習を行い、無理なく実際の演奏に応用できる技術を養います。演奏するための持久力や安定性を高め、読譜や発想にも力を付けていく内容です。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
●各キーのダイアトニックコードの理解 ●ピアノ伴奏 ●8ビート、16ビート、シャッフル等のビートの理解 ●フレーズの活用とアレンジ ●フレーズのアドリブへの活用	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	アコースティックピアノについて考察
2	シンセサイザーの基本的知識
3	様々なコードパターンとビート
4	アコースティックピアノについて習熟度の確認
5	デジタルシンセサイザーについて考察
6	ペントニック
7	マイナーペントニック
8	デジタルシンセサイザーについて習熟度の確認
9	クラビネットやアコーディオン等、その他の鍵盤楽器について考察
10	ブルーススケール
11	フレーズの演習
12	テンションノート、その他のコード
13	その他の鍵盤楽器について習熟度の確認
14	後期試験
15	一年間の復習及びまとめ

授業科目		授業時数
アンサンブル		120
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
麻生 隆治 プロミュージシャンとして複数のLM楽器を演奏できる力を生かし4リズムパート学生の合奏精度を高めていく方法を教えてくれる。		
前 期		
到達目標		
●他パートの演奏の把握 ●アレンジへの対応 ●楽曲に合った音量、音色の表現 ●アイコンタクトの実施		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	■教室設備について解説 ■課題曲アンサンブル指導 についての心構え	
2		
3		
4	課題曲アンサンブル指導	
5		
6		
7	課題曲アンサンブル指導	
8		
9		
10	課題曲アンサンブル指導	
11		
12		
13	課題曲アンサンブル指導	
14		
15		

授業の方法	
講義・演習・実験・実技 (実習)	
授業概要	
アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
●他パートの演奏の把握 ●アレンジへの対応 ●楽曲に合った音量、音色の表現 ●アイコンタクトの実施	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	課題曲アンサンブル指導
2	
3	
4	課題曲アンサンブル指導
5	
6	
7	課題曲アンサンブル指導
8	
9	
10	課題曲アンサンブル指導
11	
12	
13	課題曲アンサンブル指導
14	
15	

授業科目		授業時数
音楽理論		60
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
能勢 英史 オーソドックスなジャズミュージシャンとしてしっかりしたセオリーを指導、各楽器に実用性ある内容として「音楽理論」を指導される。		
前 期		
到達目標		
●音符と休符の種類の理解 ●記号の理解(速度、拍子記号など)		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	イントロダクション 四分音符の定義 4小節単位.	
2	リズムの概念 色々な拍子の曲を聴く.	
3	裏拍の概念 16分音符	
4	休符、付点音符. 譜面の進行	
5	譜面の進行. ハコ譜の書き方.	
6	ハコ譜の書き方. メジャースケールの音程関係	
7	ト音記号、ヘ音記号 調号.	
8	音程の数え方	
9	トライアド&4和音 テンションの考え方	
10	ダイアトニック・コード、三和音のみ. ファンクションの解説	
11	ダイアトニック・コード、ファンクション. 五度進行の法則	
12	マイナースケールが3種類ある理由	
13	前期の復習	
14	前期試験	
15	前期試験返却	

授業の方法		
講義 演習・実験・実技・実習		
授業概要		
基礎的な音楽理論と音楽ジャンルや各種楽器への理解を深めます。楽典的なものから読譜力や音程・和音や旋律の知識を習得して楽曲に対する理解を広げていきます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材:モダンミュージックセオリー、五線紙		
後 期		
到達目標		
●調号とトナーリティの理解 ●スケールとモードの理解		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ダイアトニックコード 復習	
2	F⇄Dm7⇄Dmについて	
3	ドミナントモーション II m7-V 応用として Gm7-C7-F~	
4	転調の手法	
5	転調の手法	
6	転調の手法	
7	クリシェ	
8	バッシング デミニッシュ	
9	ペントニックスケール	
10	チャーチモード	
11	チャーチモードの具体例	
12	移調について	
13	後期の復習	
14	後期試験	
15	後期試験返却 及び補足説明	

授業科目		授業時数
音楽史		60
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
松原 啓之 バンド活動、ボーカルコーチ、大手外資系CDショップでのパイヤー経験から、学生に音楽のすばらしさを伝えてくれる。		
前期		
到達目標		
幅広いポップスの知識を得る ロックンロール登場以前 ロックンロール / ビートルズの成功と影響		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス 講義概要、授業コンセプトや年間の授業内容を説明。	
2	MTV① 1980年代に登場した新たな音楽媒体MTVについて検証する。音楽マーケットへの影響力やビデオ製作における音楽性の変化などを掘り下げていく。同時に社会問題に発展した事件や音楽モラリズムの変化にも触れる。	
3	MTV② MTVの存在位置を、当時の音楽マーケットへの影響力やビデオ製作における音楽性の変化などをヒントに掘り下げていく。MTVは当時の時代にどれくらい楽曲のセールスに影響したのかを検証する。	
4	MTV③ MTVの存在位置を、当時の音楽マーケットへの影響力やビデオ製作における音楽性の変化などをヒントに掘り下げていく。MTVは当時の時代にどれくらい楽曲のセールスに影響したのかを検証する。	
5	1980年代の洋楽事情② 1980年代のチャートをピックアップし、当時の音楽トレンドやアーティストイメージを考察する。当時のトレンド、ファッション、社会情勢等の様々なデータをもとにどういったものを市場が欲しているかを検証する。	
6	1980年代の洋楽事情③ 1980年代を歴史的背景や経済事情、音楽界のムーブメントをヒントに研究する。どのようなアーティストが登場したのか、当時の音楽媒体や宣伝・広報は現在とどのような違いがあったかを検証する。	
7	1980年代の洋楽事情④ 1980年代に活躍したアーティストをピックアップし、それぞれどのような影響を音楽界にもたらしたのかをアーティスト別に検証する。それぞれが持つ音楽性や音楽的ルーツ、個性のアピール等を題材としていく。	
8	1990年代の洋楽事情① 1990年代のチャートをピックアップし、当時の音楽トレンドやアーティストイメージを考察する。当時のトレンド、ファッション、社会情勢等の様々なデータをもとにどういったものを市場が欲しているかを検証する。	
9	1990年代の洋楽事情② 1990年代のチャートをピックアップし、当時の音楽トレンドやアーティストイメージを考察する。当時のトレンド、ファッション、社会情勢等の様々なデータをもとにどういったものを市場が欲しているかを検証する。	
10	1990年代の洋楽事情③ 1990年代を歴史的背景や経済事情、音楽界のムーブメントをヒントに研究する。どのようなアーティストが登場したのか、当時の音楽媒体や宣伝・広報は現在とどのような違いがあったかを検証する。	
11	1990年代の洋楽事情④ 1990年代に活躍したアーティストをピックアップし、それぞれどのような影響を音楽界にもたらしたのかをアーティスト別に検証する。それぞれが持つ音楽性や音楽的ルーツ、個性のアピール等を題材としていく。	
12	各年代ムーブメント① これまでのまとめ、復習という意味合いで各年代のムーブメント、ヒットジャンル、アーティストをまとめて紹介する。試験に向けた情報の整理を促す。	
13	各年代ムーブメント② これまでのまとめ、復習という意味合いで各年代のムーブメント、ヒットジャンル、アーティストをまとめて紹介する。試験に向けた情報の整理を促す。	
14	前期試験	
15	まとめ	

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
ポップスの歴史を通して、現在の音楽シーンの成り立ちやジャンルの派生、楽曲やアーティストに関する知識等を研究していきます。 <実務経験のある教員等による授業科目>		
使用教材:総合音楽史		
後期		
到達目標		
幅広いポップスの知識を得る ハードロック・プログレッシブロック・グラムロック 巨大化するロックビジネス / バンク、レゲエ / ファンク・ヒップホップ		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	1970年代の洋楽事情① 1970年代のチャートをピックアップし、当時の音楽トレンドやアーティストイメージを考察する。当時のトレンド、ファッション、社会情勢等の様々なデータをもとにどういったものを市場が欲しているかを検証する。	
2	1970年代の洋楽事情② 1970年代のチャートをピックアップし、当時の音楽トレンドやアーティストイメージを考察する。当時のトレンド、ファッション、社会情勢等の様々なデータをもとにどういったものを市場が欲しているかを検証する。	
3	1970年代の洋楽事情③ 1970年代を歴史的背景や経済事情、音楽界のムーブメントをヒントに研究する。どのようなアーティストが登場したのか、当時の音楽媒体や宣伝・広報は現在とどのような違いがあったかを検証する。	
4	1970年代の洋楽事情④ 1970年代に活躍したアーティストをピックアップし、それぞれどのような影響を音楽界にもたらしたのかをアーティスト別に検証する。それぞれが持つ音楽性や音楽的ルーツ、個性のアピール等を題材としていく。	
5	1960年代の洋楽事情① 1960年代のチャートをピックアップし、当時の音楽トレンドやアーティストイメージを考察する。当時のトレンド、ファッション、社会情勢等の様々なデータをもとにどういったものを市場が欲しているかを検証する。	
6	1960年代の洋楽事情② 1960年代のチャートをピックアップし、当時の音楽トレンドやアーティストイメージを考察する。当時のトレンド、ファッション、社会情勢等の様々なデータをもとにどういったものを市場が欲しているかを検証する。	
7	1960年代の洋楽事情③ 1960年代を歴史的背景や経済事情、音楽界のムーブメントをヒントに研究する。どのようなアーティストが登場したのか、当時の音楽媒体や宣伝・広報は現在とどのような違いがあったかを検証する。	
8	1960年代の洋楽事情④ 1960年代に活躍したアーティストをピックアップし、それぞれどのような影響を音楽界にもたらしたのかをアーティスト別に検証する。それぞれが持つ音楽性や音楽的ルーツ、個性のアピール等を題材としていく。	
9	様々な音楽ジャンルについて①	
10	様々な音楽ジャンルについて②	
11	様々な音楽ジャンルについて③	
12	各年代ムーブメント③ これまでのまとめ、復習という意味合いで各年代のムーブメント、ヒットジャンル、アーティストをまとめて紹介する。試験に向けた情報の整理を促す。	
13	各年代ムーブメント④ これまでのまとめ、復習という意味合いで各年代のムーブメント、ヒットジャンル、アーティストをまとめて紹介する。試験に向けた情報の整理を促す。	
14	後期試験	
15	年間まとめ	

授業科目		授業時数
イベント制作		32
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
杉山 徹 ギタリスト、アーティストプロデューサーとしてレコーディング、ライブ演奏、イベント制作、写真撮影、映像編集など様々な経験を生かし学生の指導や育成をする。		
前 期		
到達目標		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
学校全体の行事として実施、各学科の特徴を生かしたかたちで成果発表を盛り込む。学年及び各学科・専攻により制作レベルには違いはあるが、学校全体としての大きな目標を理解して進める。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	全体構想 過去のイベントを参考に、「イベント」といわれる催事についての解説を行い、各学科が習得している内容を生かすヒントを与えていく。そして、大きな仕組みの理解をしてもらう。
2	イベント準備 今回のイベント趣旨やその目的等をわかりやすく解説。公募されるものの仕組みや学生全体で担当する具体的なものを紹介していく。
3	参加内容 自分たちの参加内容をアイデア出し、企画・プランニングしていく。学科・専攻で参加するものやグループ・個人で出演やコンテンツ参加等、いろんな関わり方を知ってもらう。
4	制作① 具体的な計画術を学んでいく。具体的にする作業内容、そこから導くチェックリスト、制作スケジュールや予算等を明確にしていく。
5	制作② 担当別にグループや個人に依頼して割り振る考え方を持っていく。そのための期限等は、その次のスケジュールに影響を及ぼすことも学んでいく。
6	制作③ 広報的な内容にも理解を示していく。実際には、どれだけの集客を望めたのかの結果として出てくるものになるので、その集計やアンケート回収などの知識を学ぶ。
7	実施運営① 具体的な用意(仕込み／準備等)を行う。担当箇所の運営にあたる人のスケジュールを作成。その担当者のチェック項目を明確にするもの等を揃えて実施運営としていく。また簡単なルール・マニュアル作りも大切な要素となる。
8	実施運営② 実施運営を行い、最終的なものとしての撤収作業。準備時間よりも早く終わるものだが、廃棄・保存・記録等の作業が次年度に関係してくるものとなる。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業科目		授業時数
業界研究		68
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
杉山 徹 ギターリスト、アーティストプロデューサーとしてレコーディング、ライブ演奏、イベント制作、写真撮影、映像編集など様々な経験を生かし学生の指導や育成をする。		
前 期		
到達目標		
目指す業界の基本的な仕事内容を理解していく。他の実習授業との兼ね合いも関連していくことを十分に理解して学内外のイベントや実習に触れていく。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	新歓コンサート (4)	
2	軽音連イベント (8)	
3	検定対策[音響] (10)	
4	検定対策[照明] (10)	
5	ステージ実習 (4)	
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
イベントの制作業務、ガイダンス参加、業界での必要な資格取得も率先して取り組んでいきます。また、演奏に関しては、高い技術力を持った演奏を研究する機会もあります。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
学内の基本的な実習内容を理解した上で、他の学科との関係性を考える。自分自身が携わる部分を意識出来るようにしてもらい、その業界での仕事スタイルや慣習を学ぶ。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	芸術鑑賞 (4)
2	軽音連イベント (8)
3	ステージ実習 (4)
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業科目		授業時数
音楽業界概論		60
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
杉山 徹 ギターリスト、アーティストプロデューサーとしてレコーディング、ライブ演奏、イベント制作、写真撮影、映像編集など様々な経験を生かし学生の指導や育成をする。		
前 期		
到達目標		
音楽活動への理解を深める/音源制作とその収益ビジネスの知識を得る		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	2年の総合音楽専攻カリキュラムについて	
2	PC操作①	
3	PC操作②	
4	PC操作③	
5	オーディション・コンテスト	
6	ライブブッキングについて	
7	デビュー①[プロフィール編]	
8	メジャーとインディーズ	
9	CD制作の仕組み①	
10	CD制作の仕組み②	
11	PC操作④	
12	PC操作⑤	
13	PC操作⑥	
14	前期試験	
15	テスト返却と解説	

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
音楽業界の歴史的背景や成り立ち、そして、業種の仕組みやその関連業種等についても学びます。著作権、流行、PC操作、ソーシャルメディアへの対応も含め業界への指向を深めていく内容です。 <実務経験のある教員等による授業科目>		
使用教材:		
後 期		
到達目標		
権利と収益の知識を得る/創作活動について自身の考えを持つ		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	著作権②	
2	著作権③	
3	アーティストに関わる契約	
4	音楽ビジネス全般についてのお金の流れと収益構造	
5	海外の音楽業界事情	
6	PC操作⑧	
7	PC操作⑨	
8	PC操作⑩	
9	写真・ビデオ撮影	
10	PC操作⑪	
11	音楽配信の仕組み①	
12	音楽配信の仕組み②	
13	いろいろな収益構造	
14	後期試験	
15	テスト返却と解説	

授業科目		授業時数
音響工学		60
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
豊島 芳樹 ホール音響、音楽録音、ラジオ番組制作、設備・メンテナンス等あらゆる形態の音響現場を経験しており、それぞれの形態を詳しく教授する。		
前 期		
到達目標		
PAとレコーディングのシステム、デジタルの理解		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	レコーディング①	録音機器の歴史、スタジオの仕組み
2	レコーディング②	レコーディングコンソールの知識① ・インラインとI/Oモジュール ・スプリットコンソールとの違い ・HAとEQ・インサートエフェクト
3	レコーディング③	パッチベイ ・タイプ別接続方法 ・バンタムケーブルの取扱い ・モニターシステムの使用法
4	レコーディング④	モニターシステム ・パワーアンプ ・パワードスピーカー ・ラージモニターとニアフィールドの使い分け
5	レコーディング⑤	録音機 ・マスターレコーダー ・ProTools
6	レコーディング⑥	ProTools ・簡単なオペレート ・ミックスモードとトラックモードの理解
7	レコーディング⑨	ここまでの纏め、小テスト
8	PA①	PA機器の歴史 ・舞台芸術の種類と歴史 ・舞台技術概論
9	PA②	舞台と設備 ・舞台装置 ・音響設備 ・照明設備
10	PA③	安全衛生 ・関連法令 ・実例紹介
11	PA④	PA機材① ・スピーカーシステム ・パワーアンプ ・プロセッサ(チャンネルディバイダー)
12	PA⑤	PA機材② ・アナログコンソール ・デジタルコンソール ・ネットワークシステム
13	PA⑥	PA機材③ ・マイク、アクセサリ、スタンド ・ケーブル各種 ・アウドボード
14	テスト	前期内容から
15	テスト返却	解答の解説

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
音響エンジニアにとって必要な知識を講義形式で学びます。「音響映像設備マニュアル」を用いて、音の基礎から用語の解説、実際に現場で使用する機材の概要や構造を学習します。 <実務経験のある教員等による授業科目>		
使用教材:音響映像設備マニュアル		
後 期		
到達目標		
実際のミキシングに対する応用力の向上		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	エフェクタ 復習編①	周波数系 空間系 アウトボードとデジタルコンソールDSPでの違い
2	エフェクタ 復習編②	ダイナミック系 アウトボードとデジタルコンソールDSPでの違い
3	エフェクタ 復習編③	位相系 アウトボードとデジタルコンソールDSPでの違い
4	ミキシングイメージ①	ステレオ感とモノラル感 ・イメージシート ・ライブとパッケージ
5	ミキシングイメージ②	イコライジング ・EQとフィルターの違い ・効果的な使用法 ・失敗例
6	ミキシングイメージ③	空間確保 ・ステレオ感と位相 ・位相ずれによる障害
7	ミキシングイメージ④	音程感 ・高くも低くも無い音程とは？ ・高音と低音のバランス
8	ミキシングイメージ⑤	まとめ ・効果的なミキシング目標 ・場面に応じた対処法
9	MA①	プリプロとポストプロ ポストプロダクションの仕組み
10	MA②	タイムコード ・タイムコードの扱い ・VTRとMTRの同期 ・ドロップフレームの意味
11	MA③	MAテクニック ・SEとBGM ・MEと台詞
12	MA④	ミキシング ・ステレオとモノラル ・サラウンド
13	MA⑤	映画とテレビの違い 総まとめ
14	テスト	後期内容から
15	テスト返却	解答の解説

授業科目		授業時数
音響実習		180
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
原田 知実 小規模から大規模まで、あらゆる形態の仮設音響システムに精通、イベント形態を問わない豊富な経験を元に学生指導する。		
前 期		
到達目標		
ベーシックなバランスを基礎にエフェクターを使用し個性のある音源に仕上げる 様々なパターンのセッティングを身に付ける		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	音響エンジニアの心構え 音響エンジニアの実際の仕事内容の説明、及び一年間受講していくにあたり将来どんなエンジニアになりたいのか？など学生との意思確認を行う。	
2	ミキシング Dr.&Ba.ミックスをリズムセクションのバランスを編集する。	
3	前回行ったDr.&Ba.]に上モノ入れてミックスを行い2MixまでDryの状態で仕上げる。	
4	小規模PAシステムのセッティング1 一年時の復習として、PAシステムのセッティングを確実の覚える。また、時間を計ってセッティングをし、セッティングをする際の注意点を守り、マイクからスピーカーまでの信号の流れを確実に覚える。	
5	機器の取り扱い、信号の流れやグラフィックイコライザーの特性を学び、小規模システムのスピーカーのチューニングを行う。	
6	PAシステムのセッティング マルチBOXの構造とその役割に関することやケーブルに関することやマルチウェイスピーカーシステムの仕組みを学ぶ。INPUT数を増やしてのステージセッティングを行い、注意する点を学ぶ。スピーカーのスタッキングする際の注意点を学ぶ。	
7	ステージモニターセッティング フロント卓、モニター卓と分岐をし、結線などを覚えると共にモニターのチューニングを学んでいく。	
8	デジタルミキサーの取り扱い デジタルミキサーの基本的な概念、操作方法を学んでいく。	
9	PAシステムのセッティング1 フロント、モニター、ステージとポジション分けをする。各ポジションの役割を学んでいく。PA現場でよく使用される周辺機器の取り扱いを学んでいく。	
10	PAシステムのセッティング2 フロント、モニター、ステージとポジション分けをする。各ポジションの役割を学んでいく。PA現場でよく使用される周辺機器の取り扱いを学んでいく。	
11	ミキシング1 課題の曲のMixをDryの状態で作成させる。	
12	ミキシング2 課題の曲のMixをDryの状態で作成させる。	
13	ミキシングテスト テスト用の課題曲のMixを1曲完成させる。 ※Dryで	
14	テスト採点 全員でMixを聴き比べ、採点を行う。	
15	テスト結果返却 前期総括・復習	

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
音響機器の設置、操作やホール規模のPAの仕込み、チューニングなど実習します。またミキシングは1人1台のデジタルコンソールを使用し、音作りやバランス、エフェクター操作を学びます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材:ヘッドフォン		
後 期		
到達目標		
様々なジャンルで、ミキシング方法の違いを理解 エフェクターを使いこなす思い通りの音源に仕上げる ステージ転換とオペレーションを身に付ける		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	前期の復習 INPUT、モニター、アウトシステム等のsetting、ミキサー、周辺機器の操作方法の復習を行う。	
2	PA実習 ドラム、ベースパートのみPAする。その際セッティング方法、マイキングなど注意点を学ぶ。	
3	PA実習 ドラム、ベースパートのみPAする。その際セッティング方法、マイキングなど注意点を学ぶ。	
4	ミキシング 各機器のセッティング、レファレンスを行う。 課題曲を使用し、Dynamics系、EQ、Panlにあわせて空間系Fx (Rev.Delay)も使用してのMixを行う	
5	ミキシング 各機器のセッティング、レファレンスを行う。 課題曲を使用し、Dynamics系、EQ、Panlにあわせて空間系Fx (Rev.Delay)も使用してのMixを行う	
6	ミキシング 前回に引き続き、課題曲を使用し、Dynamics系、EQ、Panlにあわせて空間系Fx (Rev.Delay)も使用してのMixを行う	
7	ミキシングテスト テスト用の課題曲のMixを1曲完成させる。 DelayやRevなどのオーダーを受けて、リアルタイムで機器を操作し2Mixとして録音をする。	
8	テスト採点 全員でMixを聴き比べ、採点を行う。	
9	PA実習 さまざまなパターンでのセッティングができるよう実践しながら学んでいく。	
10	PA実習 さまざまなパターンでのセッティングができるよう実践しながら学んでいく。	
11	PA実習 さまざまなパターンでのセッティングができるよう実践しながら学んでいく。	
12	ミキシングテスト テスト用の課題曲のMixを1曲完成させる。 DelayやRev、スイッチングなどのオーダーを受けて、リアルタイムで機器を操作し2Mixとして録音をする。	
13	テスト採点 全員でMixを聴き比べ、採点を行う。	
14	テスト結果返却	
15	1年間の総括	

授業科目		授業時数
演奏技術		120
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
西本 貴和子 長年のボイストレーナーの経験と、ゴスペルクワイアー主催としての活動経験から、発声、ハーモニー、リズムの構築や重要性を伝えていく。		
前 期		
到達目標		
歌唱技術の向上 概要、及び指導内容に準ずる理解力と実践力の達成		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	フィジカル&指定曲 体幹トレーニング/ストレッチを個々の課題として行う。 ※ミディアムテンポの洋楽3曲、自分が演奏できそうな1曲を選択。	
2	選択曲プレゼン&MC カラオケデータから自分らしいと感じる歌い方ができる選曲をします。個性を感じさせてくれるものが、芽生えてくれることを期待します。	
3	発声理論④ 積み上げてきた「発声」に対して、よりレベルをUPした内容を混ぜていきます。	
4	楽器(弾き語り) 指定するコード進行を弾きながら、歌詞無しの歌を唄います。ハミングレベルですが、ハーブ等を使用しても結構です。思いつきで歌詞を入れても構いません。少しでも譜面に残しましょう。	
5	オリジナル曲 先週の内容を、発表します。簡単なものでも歌詞があれば、より判りやすいものになると思います。	
6	課題曲 1970～1990年代の名曲とされる洋楽を1曲選曲してください。 ※1、2年演奏アンサンブルで採用している曲を推奨してください。	
7	歌唱スタイル 沢山のボーカリストの中で、学生に良い影響を与えられると感じるボーカリストを紹介する。できれば、学生の雰囲気と似ている、参考になると思われるアーティストが良い。	
8	歌唱チェック 現状で、それぞれの歌い方をチェックして、留意点を伝えていきます。良い内容は伸ばす、悪い癖は、これ以上にならない工夫を心がけます。	
9	課題曲チェック 1970～1990年代の名曲とされる洋楽を1曲選曲の審査をしていきます。結果的に良いボーカリストは、経験のために演奏系アンサンブルの方へ推薦する可能性があります。	
10	発声理論⑤ 音感トレーニング ファルセット、ミドルボイス等、声帯のコントロールを学びます。 また、音程差を理解するためのエチュードを充分に行っていきます。	
11	楽器(弾き語り) ミディアムテンポの洋楽3曲、自分が演奏できそうな1曲を選択して 実際に演奏することを具体化していきます。	
12	課題曲分析 選んだ課題曲の分析を行います。曲構成・歌詞・コード進行・メロディ等の理解度を確認するための分析を発表します。	
13	課題曲チェック 【リハーサル】時間をかけて、各自の前期課題曲のうち、2曲を10分ステージとしてMCを入れて発表します。	
14	前期試験 【本番】	
15	FOLLOW 前期の状況を確認して後期に対しての課題を申し渡します。	

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
歌唱・演奏技術に関する基礎的な反復練習を行い、無理なく実際の演奏に応用できる技術を養います。演奏するための持久力や安定性を高め、読譜や発想にも力を付けていく内容です。 <実務経験のある教員等による授業科目>		
使用教材:		
後 期		
到達目標		
歌唱技術の向上 概要、及び指導内容に準ずる理解力と実践力の達成		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ユニット練習①	クラスのメンバーでユニットを組み、自由曲1曲を必ず、自分たちの演奏でハモリを入れて披露します。
2	ユニット練習②	練習
3	ユニット【本番】	自由曲1曲ですが、即席ユニットで、発表します。
4	課題曲	3連、12ビートの曲を基準に選曲します。
5	楽器(弾き語り)	自分が唄うために自分の伴奏をします。そのために、ギターもしくは、ピアノを勉強、安定してコード進行を弾けるようにします。
6	オリジナル曲	オリジナル曲を創るようになっています。メロ先行、ハコ譜コード先行、歌詞先行、打ち込み先行等、どのようなかたちでも結構ですので「オリジナル」に拘ります。
7	ピッチ・リズム	もう一度、ピッチやリズムに関しての時間をかけたチェックポイントとして授業を行います。
8	発声理論⑥	ファルセット、ミドルボイス等、声帯のコントロールをチェックしていきます。
9	課題曲	4ビートやブルース、ラテン、ボサノバ等のリズムを持つ楽曲を選曲します。
10	オリジナル曲	何かのかたちで「譜面」を用意します。担当講師が伴奏してくれるので一旦、唄ってみましょう。
11	楽器(弾き語り)	自分が唄うために自分の伴奏をします。そのために、ギターもしくは、ピアノを勉強、安定してコード進行を弾けるようにします。
12	指定曲	アカペラ課題曲 今回は、同級生とハモります。
13	課題曲	自由選択 後期試験で歌う曲をカラオケでプレゼンしてください。
14	後期試験	【本番】自由曲とオリジナル曲の2曲を10分のステージとしてMCを入れて発表します。できれば、オリジナル曲は、弾き語りであれば良いと考えます。
15	FOLLOW	総括として、個人のポイントを話していきます。今後においても努力できるようにしてほしいです。

授業科目		授業時数
演奏技術		120
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
杉山 徹 ギターリスト、アーティストプロデューサーとしてレコーディング、ライブ演奏などの経験を活かし学生の指導を行		
前 期		
到達目標		
それぞれの音楽ジャンルを生かしたかたちで、自己の音表現のためにフィジカルや奏法力を鍛え、フレージング・音色・アレンジ能力等の特徴を掘めるようにする。		
評価方法		
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	フィジカルトレーニング	1年間頑張った内容を含め、2年最初に改めてフィジカル的な要素の足らずや不得意を明かにして調整をしていきます。
2	初見演奏 Chord	譜面に書かれているコードを初見で弾く練習をします。メトロノームに合わせて最初はゆっくりで結構です。実際の演奏では他の楽器も演奏が続いています。間違ってもすぐに戻って弾くことを前提とします。
3	初見演奏 Melody&Phrase	譜面に書かれているメロディやフレーズを初見で弾く練習をします。メトロノームに合わせて最初はゆっくりで結構です。実際の演奏では他の楽器は演奏が続いています。間違ってもすぐに戻って弾くことを前提とします。
4	Tension Chord 転回形と各音の位置の理解	9th、(#11)、13thの音を入れ込んだポジションを理解、Rootが最低音のケース、Rootが内声に入り込んだ転回形になるケースもある。b9、#9、b5、#5、b13等の組み合わせもあります。
5	エフェクターに関するプレゼン	2年生になると色々なエフェクターを持っているので、みんなで、それらの紹介や特徴をプレゼン、アンプに関するチューニングの拘りも話せる範囲で発表してみます。
6	バッキング	ギタリストは一部の楽曲を除いて、自分の役割はバッキングになる。16ビートカッティング、単音カッティング、ミュート、アルペジオ、ダブルストップ、ブロックコード、オクターブ等を再認識します。
7	フラットピッキング 中級	意外に難しい「ゆったりとしたフラットピッキング」。これは、アコギとVocalのデュオをやってみるとすぐに判る内容。アルペジオ～フラットピッキングという流れの盛り上がり方を一定のテンポで練習。
8	Pentatonicで弾くアドリブ講座①	コードの流れを考えてアドリブを実践。CM7-Dm7 Dm7-Em7 FM7-Em7 ある程度できればKeyを変更。この例題は進行が変更されても感覚は同じようなPhraseを弾いていると感じてくれることを目的とします。
9	Pentatonicで弾くアドリブ講座②	コードの流れを考えてアドリブを実践。GやAのブルースは、前回とはバックグラウンドの雰囲気は全く異なるが、弾くことができる内容となります。
10	Pentatonicで弾くアドリブ講座③	コードの流れを考えてアドリブを実践。E7やBb7の1発モノを馴染みやすい8ビート、16ビート等、いろんなビートで弾いてみる。ここでは、アドリブをする次の人に渡す方法を学んでもらう。
11	Pentatonicで弾くアドリブ講座④	コードの流れを考えてアドリブを実践する。ペンタトニックスケールを転調するかたちで使用する例 (What's goin' on)。ここでは Gm7-Bb m7で弾いてみます。また、CM7-A b M7というコード進行も試してみます。
12	Available note scale	ダイアトニックスケールの各コードに理論上使用できるものとして紹介されるモードスケールを弾きながら確認します。8～11の授業で行ったコード進行を今回の考え方で弾いてみます。
13	MajorとMinorのケーデンスに対する対応を検討	Dm7(b9)-G7-Cm7/E bで弾いたものを Dm7-G7-CM7/E に重ね合わせると少しAltered感覚を感じれるものになります。※H-P5 ↓ / Altered等
14	実技試験	1～14の内容を含んだ実技試験
15	前期FOLLOW	質疑応答 「Phraseを作る、メロを作る、曲を創る・・・。」「バンドをやっている、やっていない。活動の方向性??」「どんなことを考えてギタリストをやっているのか」という座談会

授業の方法		
講義 ・ 演習 ・ 実験 実技 実習		
授業概要		
歌唱・演奏技術に関する基礎的な反復練習を行い、無理なく実際の演奏に応用できる技術を養います。演奏するための持久力や安定性を高め、読譜や発想にも力を付けていく内容です。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材:		
後 期		
到達目標		
それぞれの音楽ジャンルを生かしたかたちで、自己の音表現のためにフィジカルや奏法力を鍛え、フレージング・音色・アレンジ能力等の特徴を将来に向かって伸ばしていく。		
評価方法		
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	フィジカル & 特殊なスケール	フィジカル的訓練をしながらDiminish、Combination of Diminish、Whole Tone、H-P5 ↓ Altered、Augment等の弾き方が覚えれるように練習します。
2	ピッキングニュアンスの問題	クラスメイト、先生も含め、それぞれのピッキングがその人の音を作っていくことになりやす(左手の装飾音の扱い方もある)。ピッキングの角度や当たり方、ピックの素材、ギター弦等も含めて考察します。
3	コードソロ①	コードを弾きながら、メロディをトップノートにしてスムーズに動かす練習をします。ロックの場合は、ブロックコード的に使用する場合が多いようです。
4	コードソロ②	例題曲のメロディをコードのトップに乗せて演奏します。譜面やコードボイスの理解、コードチェンジのスムーズさが必要となってきます。
5	コードトーンを考えたアドリブ①	コードトーンとなるRoot、3rd、5th、7thが中心となるアドリブを考えてみます。A7-D7とAm7-D7のふたつの流れで弾いてみると判りやすいかもしれません。
6	コードトーンを考えたアドリブ②	CM7-B b 7-A b M7-G7や Cm7-A b M7-Dm7(b9)-G7等、マイナーダイアトニックコードの連結を練習します。
7	コードトーンを考えたアドリブ③	CM7-Am7-Dm7-G7という進行に対して、自分が弾こうとするフレーズを五線紙に書き記してみましょう。それを弾いてみます。
8	コードトーンを考えたアドリブ④	SOLOを弾いている時、今現在どのコードがなっているのかどうか判るようになるには、それなりの時間がかかります。アドリブに使用しやすいコードアルペジオ運指を覚え、それをその場で弾けるようにしましょう。
9	初見演奏	譜面に書かれているメロディやフレーズを初見で弾く練習をします。実際の演奏では他の楽器は演奏が続いています。間違ってもすぐに戻って弾くことを前提として弾きましょう。
10	コードトーンを考えたアドリブ⑤	tempo=120程度 (samba de ~ Key=C) 明るい歌いやすいナンバーです。サビに Sub-Dominant / Sub-Dominant minorの流れがあります。
11	4beat Blues	スタンダードなBlues Key=B b ペンタトニックでも弾けますが、あえてそのコードにはめ込んだものを大切に挑戦してください。
12	Tension Chord	9th、(#11)、13th b9、#9、b5、#5、b13等の組み合わせ。Root音が無いケースも多いです。響きの美しいギターらしいサウンド等も押さえてみます。
13	CHORD SOLO 曲	ひとつの機会として、メロディ、テンション、コード、リズム等の要素が入ったソロ曲を練習してみましょう。
14	実技試験	後期1～13の内容を含んだ実技試験
15	後期FOLLOW	実技試験の振り返りと質疑応答 「これから先、どうにかたちでギタリストをやっていくか??」という座談会

授業科目		授業時数
演奏技術		120
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
常田 悟 ソロパフォーマンスを得意とした演奏＆歌唱の音楽活動経験から、ベーシストを目指す学生たちに演奏技術を伝授していきます。		
前 期		
到達目標		
演奏表現の技術力 音色作り		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	スケールトレーニング	各スケールの構造を理解してフラグメントにより連指トレーニングを行います。メジャースケールから派生するチャーチモード。
2	スケールトレーニング	スケールの構造を理解してフラグメントにより連指トレーニングを行います。マイナースケール3種とその成り立ちについて。
3	アルペジオトレーニング	I M7、II m7、III m7、IV M7、V7、VI m7、VII m7 b5、ダイアニックコード構成音配置をフィンガーボード上で把握します。
4	ベースライン	メジャーKeyコード進行のベースラインをコードトーンや経過音を意識して演奏していきます。
5	スケールトレーニング	マイナーkeyに現れるドミナントコード、Vm7がV7に変化した場合のスケールについて理解します。Harmonic Minor Perfect 5th Bellow
6	ベースライン	マイナーKeyコード進行のベースラインをコードトーンや経過音を意識して演奏していきます。
7	スケール	ドミナントセブンスコードのアペイラブルノートスケールの考え方。コードに対して使用できるテンションを加えて、アドリブ等で使用できるスケールを紹介していきます。
8	スコアライティング	課題曲などを用いたスコアライティング。音源からコードやフレーズを聞き取り、演奏用のスコアを作成していきます。
9	スコアライティング	先週に引き続き
10	ピッキング	フィンガーピッキングの精度を高めます。正確さはもとより、アタックやトーンの質にこだわってトレーニング。確認のためにDAWの録音機能活用も行っていきます。
11	課題曲	第9週の内容について課題演奏とピッキングの確認
12	フィンガリングとピッキング	ピッキングのタイミングとマッチするフィンガリングの感覚をつかみます。正確さはもとより、アタックやトーンの質にこだわってトレーニング。確認のためにDAWの録音機能活用も行っていきます。
13	課題曲	第11週の内容について課題演奏とDAW録音確認
14	前期試験	スケールフラグメントと課題曲演奏
15	まとめ	

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
歌唱・演奏技術に関する基礎的な反復練習を行い、無理なく実際の演奏に応用できる技術を養います。演奏するための持久力や安定性を高め、読譜や発想にも力を付けていく内容です。 <実務経験のある教員等による授業科目>		
使用教材:ヘッドフォン		
後 期		
到達目標		
演奏感覚の養成 音楽の捉え方		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ビートの研究	バウンスビートの詳細について考えていきます。8分と16分、シャッフルやバウンスのビートの対比を色々と試していきます。
2	課題曲	モータウンの名曲を課題にしてバウンスとイーブンの狭間にあるビートを研究していきます。
3	課題曲	先週に引き続き
4	課題曲	先週に引き続き
5	ビートの研究	変拍子とポリリズムについて考えていきます。拍子が変わるビートや、拍の一致しないリズムが同時に演奏される独特のリズム感。
6	課題曲	第5週の内容について課題曲演奏
7	課題曲	先週に引き続き
8	ニュアンス	音量のコントロールに焦点をあてます。ランダムな音量の変化、本当の意味での大きな音、使用可能な小さい音、他の音より強く演奏するアクセントを入れながらのリズムキープ
9	ベースライン	これまでの課題曲等のベースラインを用いて第8週の内容をトレーニングします
10	ベースライン	先週に引き続き
11	アーティキュレーション	ベースプレイのなかで、機械的な感じ(抑揚がない、均一的である)から感情的な感じ(抑揚の大きい)までを表現していく事を考えます
12	ベースライン	第8週の内容について課題演奏、各自の捉え方や表現を比較します。
13	ベースライン	先週に引き続き
14	後期試験	後期に学んだ内容を意識して第2週課題曲を実技
15	まとめ	年間のまとめとこれからの音楽探求について考えます。

授業科目		授業時数
演奏技術		120
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
川上 浩初 ミュージシャンとして活躍後、教室運営に携わり長年の指導経験を持つ。 その経歴からの確かなドラム演奏指導を学生へ教授する。		

前 期
到達目標
リズムパターンとコンビネーションの基礎

評価方法
筆記試験・ <u>実技試験</u> ・実習評価・課題評価・小テスト・ <u>その他</u>

授業計画		
授業項目	実施内容	
1	1年次の復習	1年次の課題点などを振り返り、2年次の授業を進めていくうえでの課題や目標を決めて授業の導入をしていく。
2	演奏技術	ルーディメンツのトレーニングとしてバラディドル系、16Beat系のルーディメンツのレクチャー、解説を行い、実践していきます。
3	演奏技術	ルーディメンツのトレーニングとしてバラディドル系、16Beat系のルーディメンツのレクチャー、解説を行い、実践していきます。
4	フィジカルトレーニング	手足のコーディネーションを行っていきます。その中で、8分音符のバリエーションを重点としたレクチャーを行います。
5	演奏技術	ルーディメンツのトレーニングとしてバラディドル系、16Beat系のルーディメンツのレクチャー、解説を行い、実践していきます。
6	演奏技術	ルーディメンツのトレーニングとしてバラディドル系、16Beat系のルーディメンツのレクチャー、解説を行い、実践していきます。
7	リーディング	1年次に行ったリーディングを発展させ、タイノードリーディング。また、Swing 16th grooveの課題を行っていきます。
8	フレージング研究	1年次に習得したビート、グルーヴの復習を行い、2年次に必要なグルーヴとFill inのレクチャーを行います。
9	フレージング研究	Rock系ドラマーの研究として、代表的なドラマーを紹介し、その代表的な曲からリズムやフレーズを学んでいきます。
10	演奏技術	ルーディメンツのトレーニングとしてフラム・ラフ系、ハーフトタイム系のルーディメンツのレクチャー、解説を行い、実践していきます。
11	演奏技術	ルーディメンツのトレーニングとしてフラム・ラフ系、ハーフトタイム系のルーディメンツのレクチャー、解説を行い、実践していきます。
12	リーディング	カットタイムリーディングについての方法をレクチャーしていき、実際に譜面を使いリーディングを行っていきます。
13	演奏技術	ルーディメンツのトレーニングとしてフラム・ラフ系、ハーフトタイム系のルーディメンツのレクチャー、解説を行い、実践していきます。
14	前期試験	
15	前期の復習、まとめ	前期に学んだことを復習していき、後期に向けて個々の課題の確認を行っていきます。

授業の方法
講義 ・ 演習 ・ 実験 ・ 実技 ・ <u>実習</u>
授業概要
歌唱・演奏技術に関する基礎的な反復練習を行い、無理なく実際の演奏に応用できる技術を養います。演奏するための持久力や安定性を高め、読譜や発想にも力を付けていく内容です。 <実務経験のある教員等による授業科目>
使用教材:

後 期
到達目標
リズムパターンとコンビネーションの応用

評価方法
筆記試験・ <u>実技試験</u> ・実習評価・課題評価・小テスト・ <u>その他</u>

授業計画		
授業項目	実施内容	
1	フィジカルトレーニング	シングルバラディドルのバリエーションについてのレクチャーを行い、ドラムセットに応用を行っていきます。
2	フィジカルトレーニング	16分音符のドラッグ移動についてレクチャーを行い、ドラムセットに応用を行っていきます。
3	フレージング研究	R&B系ドラマーの研究として、代表的なドラマーを紹介し、その代表的な曲からリズムやフレーズを学んでいきます。
4	演奏技術	ルーディメンツのトレーニングとして、ドラミング系のレクチャーを行いルーディメンツのドラムへの応用について実践をしていきます。
5	演奏技術	ルーディメンツのトレーニングとして、ドラミング系のレクチャーを行いルーディメンツのドラムへの応用について実践をしていきます。
6	リーディング	コンバウンドリーディングの方法をレクチャーしていき、実際に譜面を使いリーディングを行っていきます。
7	リーディング	チェンジングミーターリーディングの方法をレクチャーしていき、実際に譜面を使いリーディングを行っていきます。
8	フレージング研究	Funk系ドラマーの研究として、代表的なドラマーを紹介し、その代表的な曲からリズムやフレーズを学んでいきます。
9	演奏技術	ルーディメンツのトレーニングとして、ハイブリッド系のレクチャーを行います。また、ルーディメンツのフィルインへの応用について解説し、実践していきます。
10	演奏技術	ルーディメンツのトレーニングとして、ハイブリッド系のレクチャーを行います。また、ルーディメンツのフィルインへの応用について解説し、実践していきます。
11	フィジカルトレーニング	16分音符のフラム移動についてのレクチャーを行い、ドラムセットへ応用、発展させていきます。
12	演奏技術	これまで学んできた様々なルーディメンツを復習していき、それぞれのビート、フィルインへの応用について学んでいきます。
13	リーディング	セクションアンサンブルリーディングについての方法、ポイントを学び実際に所見演奏を行っていきます。
14	後期試験	
15	2年間のまとめ	2年間学んできた中でのドラマーとしての今後やまた音楽を続けて上での必要なことについて考えていきます。

授業科目		授業時数
演奏技術		120
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
名倉 学 多岐に渡る音楽キャリアを築いたその経験を活かし、ピアノ・キーボードの指導を行います。		
前 期		
到達目標		
●各音色のフレーズを完全マスターし、個人のオリジナリティーへ発展させる。 ●様々なビートに対する演奏法の理解 ●コードにあうスケールがわかる		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ジャンルについて 様々なジャンルに対しての鍵盤楽器の種類、音色、プレイスタイルについてのレクチャーを行います。	
2	鍵盤楽器の音色と種類 鍵盤楽器の音色や種類を理解し、その代表的な製品などについて触れていき理解を深めていきます。	
3	PCM音源について アナログからデジタルに移り変わる過程でのPCM音源の誕生、原理を解説します。また当時の製品の代表的な音色を説明します。	
4	エレクトリック・ピアノ エレピの代表的モデルのローズやウーリッツァーについて代表的なプレイヤーや楽曲を解説し、そのプレイや代表的な楽曲について学んでいきます。	
5	コードとスケールの関連付け 各スケールに対してのコードについて学んでいきます。またファンクションについても理解し実際に楽曲を弾いていきます。	
6	チャーチモード チャーチモードの概要、種類について学んでいきます。そして、どのような楽曲に使われているのかを知り実際に弾いていきます。	
7	エレピについての習熟度の確認 エレピの歴史や奏法、代表的な楽曲について学んできた中で、実技、知識などの確認を行います。	
8	オルガンについて オルガンについての歴史を学びその開発理由、当時の時代背景などを理解します。また、代表的な楽興、プレイヤー、奏法を理解し、実際に楽曲を練習していきます。	
9	マイナースケール&リーディングノート マイナースケールについての3種類を解説し、その使用するシーンについてや役割について理解を深めていきます。また、リーディングノートのその特性、効果を理解します。実際にどう使うかわれ方をしているのかを研究していきます。	
10	オルガンについての習熟度の確認 オルガンの歴史や奏法、使用された代表的な楽曲について学んできた中で、実技、知識などの確認また補足を行います。	
11	シンセサイザーの構造や種類、音色のエディットについて シンセサイザーの原理、構造を理解します。また代表的な製品についての音色を解説し、音色のエディットの方法についての解説していきます。	
12	V7のテンション(-9、13)のサウンドとスケール ドミナントセブンスについてのテンションについてのサウンド阿部伊良郎のスケールについて解説を行います。	
13	シンセサイザーについての習熟度の確認 シンセサイザーの構造原理について学んできた中で、実技や知識などを確認していきます。またその中で、補足も行います。	
14	前期試験	
15	試験返却と前期のまとめ	

授業の方法	
講義 ・ 演習 ・ 実験 (実技) 実習	
授業概要	
歌唱・演奏技術に関する基礎的な反復練習を行い、無理なく実際の演奏に応用できる技術を養います。演奏するための持久力や安定性を高め、読譜や発想にも力を付けていく内容です。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
●各ジャンルを代表する奏法やフレーズを完全マスターし、個人のオリジナリティーへ発展させる。 ●コードに合うスケールの理解 ●メロディーを意識したコードチェンジができる ●曲に合わせてバックアップできる	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	アコースティックピアノについて アコースティックピアノの歴史、構造について解説を行います。また代表的なメーカー、ジャンルによつての使われ方の変化についても学んでいきます。
2	様々なビートに対する演奏法の理解 様々な音楽ジャンルやビートに対する演奏方法の違いについての解説を行い、実際に演奏をおこなっていきます。
3	ディミニッシュスケール ディミニッシュスケールの概要について解説を行います。使用に際して気を付けるべきポイント、やコードについて解説をしていきます。
4	アコビについての習熟度の確認 アコビについての歴史や奏法について学んできた中で、実際に弾いていき習熟度を確認します。
5	デジタルシンセサイザーについて デジタルシンセサイザーについての歴史、また現在にわたってどのようなシーンで使われているのかを例題曲を交え解説していきます。
6	オルタードスケール オルタードスケールについての構成音や用法について学んでいく。また参考の曲を用いて効果的な使い方を解説していく。
7	リディアン7thスケール リディアン7thスケールについての構成音、用法を解説していく。また、それに付随して、使用できるコードについても学んでいく。
8	デジタルシンセサイザーについての習熟度の確認 デジタルシンセサイザーの使用法や奏法、音色づくりなどを実践していきその習熟度を見極めます。
9	その他の鍵盤楽器について クラビネットやアコーディオン等のその他さまざまな鍵盤楽器について、その種類特徴、音色、奏法などを学んでいきます。
10	ホールトーンスケール ホールトーンについてその構成音、響きや使用できるコードについて解説していきます。
11	ドミナントモーション ドミナントモーションについて、その概要について解説する。また様々な、使用方法についても楽曲を用いて解説していく。
12	セカンダリドミナント セカンダリドミナントについて、その概要や用法について解説していく。また実際の楽曲を用いて、どのように使われているかも学んでいく。
13	その他の鍵盤楽器についての習熟度の確認 その他の鍵盤楽器について様々なことを学んできた中でその習熟度について見極めを行います。
14	後期試験
15	試験返却と一年間のまとめ

授業科目		授業時数
アンサンブル		120
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
麻生 隆治 他 プロミュージシャンとして複数のLM楽器を演奏できる力を生かし4リズムパート学生の合奏精度を高めていく方法を教えてくれる。		
前 期		
到達目標		
他パートの演奏の把握 アレンジへの対応 楽曲に合った音量、音色の表現 アイコンタクトの実施		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	■課題曲アンサンブル指導 プリティッシュロックとウエストコースト 課題曲K-①② 2年生の最初は、ストレートな誰もが聴いたことのあるプリティッシュハードロックとウエストコーストロックの代表的な曲を取り上げます。1年次に習得した技術でしっかり演奏できる内容になっています。	
2		
3		
4	課題曲アンサンブル指導 ソウルフル&ファンキー 課題曲L-①② 音楽理論で学ぶ I M7-VIm7-II m7-V7 のケーデンスが、そのまま楽曲に使われ、親しみやすいきれいなメロディで構成されているソウル系の代表楽曲と切り込んだギターミュートが印象的な16ビートフィールのファンキーな楽曲を演奏します。今までとは違い、少し脱力した楽器演奏が必要とされます。	
5		
6		
7	課題曲アンサンブル指導 アコースティックな響き打ち込み的な楽曲の対応 課題曲M-①② ここではアコースティックな楽曲や打ち込み的なループフレーズを使用した楽曲を、普通の4リズムで演奏してみます。やはり、楽曲のイメージを崩すこと無く再現できるような音色や代理パートをやってみます。	
8		
9		
10	課題曲アンサンブル指導 通常の8ビート、16ビートとは少し違うリズムパターンを使用した曲 課題曲N-①② ドラムがハイハットで基本リズムを刻むのではなく、リズム隊がそれぞれのコンビネーションでリフになっているパターンの曲を勉強します。これは、バンドアレンジに変化をつける為にも知ってもらいたい内容です。そして、音符を目一杯に伸ばして軽いタッチで演奏するという楽曲も体験します。	
11		
12	課題曲アンサンブル指導 1曲の中に色々な場面が展開される曲 課題曲O-①② 各リハーサルマークごとに曲のイメージがめまぐるしく変化して組曲のような展開を持つ曲を演奏してみましょう。ビートもストレート、バウンズと入替部分があります。3〜4曲分のネタを持っていますが、惜しげも無く上手くまとめられています。もう一つは、馴染みやすいロックっぽいベースのリフを使用したPOPなモータウンチューンです。この曲の展開も流れるような美しさを持っています。	
13		
14		
15	前期まとめ	前期課題曲からランダムに選曲して演奏する。

授業の方法	
講義 ・ 演習 ・ 実験 ・ 実技 (実習)	
授業概要	
アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材：	
後 期	
到達目標	
他パートの演奏の把握 アレンジへの対応 楽曲に合った音量、音色の表現 アイコンタクトの実施	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・(その他)	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	課題曲アンサンブル指導 AOR楽曲と歌伴奏 課題曲P-①② 今までの楽曲とは少し違うAORの名曲に挑戦します。ブルース形式を使っていますが、多様性ある楽曲に仕上がっているという事実も紹介します。そして、ブルースっぽいですが、ブルース形式に基づく進行では無い3連ロックバラードもやってみましょう。
2	
3	
4	課題曲アンサンブル指導 休符に存在するビート感と曲の途中でビートが変わる楽曲 課題曲Q-①② ギターのカッティングで始まるAORの名曲。音が鳴っていない部分の休符に存在するビートを感じてもらいます。また、J=136程度の16ビートが途中で4ビートに変わります。その同じ表示テンポで違うジャンルのビートを感じてもらおう楽曲をチョイスしました。
5	
6	
7	課題曲アンサンブル指導 2ビート系とエッジの立った16ビート 課題曲R-①② 2/2ラテン的な要素を持つ楽曲を練習します。今までにない全楽器ユニゾンもあり、フレーズも少し馴染みがないものになります。2曲目は、指弾きファンクベースのフレーズが先行していくエッジの立った名曲を練習します。同じ16分音符の音価があるのにも関わらず、表現の違いを体感してもらえるようにします。
8	
9	
10	課題曲アンサンブル指導 16ビートシャフル(バウンズ)でタイプの違う2曲 課題曲S-①② ドラムの16ビートシャフルに全ての楽器が同じリフで乗っかってくるようなAORの名曲です。2曲目も16ビートシャフルのハネものユニゾン曲です。バシッと合わなくても何かカッコいいお祭りのような要素を持つ曲。アンサンブル楽器の音色が全く違うのですが、同じ雰囲気のリフを使用しています。
11	
12	後期ステージ実習リハーサル 後期最終に行われるステージ実習(CAT HALL)に向けて選曲を行い、ステージ発表の内容を完成させていく。
13	
14	
15	1年間総括 1年間の課題曲からランダムに選曲して演奏をする。

授業科目		授業時数
音楽理論		60
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
綿貫 正顕 メジャーな作曲家・演奏家としての経験から、知識だけになりがちな理論を、実践的な形式も用いて楽曲分析を行います。		
前 期		
到達目標		
コードの理解・応用とスケールの発展形		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ダイアトニックコード 調性内の機能的なコードプロGRESSIONについて再度復習をします。調性感の明確な音楽に於ける和音連結の基礎となります。	
2	Motion of 5th Dominant Motion 調性感を明確にするルートがP5 ↓ or P4 ↑ という動きについて学びます。また、Motion of 5thの動きの中で7thChordがP5 ↓ or P4 ↑ して次のコードに進むかたちを特にドミナントMotionという。これに応用するものが色々なケースで登場します。	
3	II-V Motion SD-D-Tのケーデンスにおいて、3コードのかたちからルートの動きをスムーズにした内容がII m7-V7-I。今後、理論上で重要な内容となります。	
4	アナライズ コード進行のかたちを、アナライズ(分析)していく知識を学んでいきます。これは、様々なKEYで書かれるコード進行法を整理する意味で大切です。	
5	サブコード&ディセプティブケーデンス 主な機能を持つコードに対するサブコード(代理コード)とトニックに解決せず、その代理コードに解決させるかたちをディセプティブケーデンス(偽終止)。	
6	セカンダリドミナント I 以外のダイアトニックコード各種を一時的なトニックコードと考えドミナントモーションさせるかたちを学びます。	
7	パッシングディミニッシュ 明確な機能を持ったコードに対してなめらかに移動をさせる効果を確認します。パッシングコード／パッシングディミニッシュについて学びます。	
8	ターンアラウンド よく耳にするターンバック(循環コード)の流れや色々なコードパターンを理解してもらいます。	
9	リハーモニゼーション 原曲の持つコード進行の流れを充分理解をして、また新たなハーモニーを創作していくことを作業として「リハーモニゼーション」を学びます。ある部分のみをハーモナイズするということも出来ます。	
10	ブルース形式 12小節に示されたブルース形式を学びます。Major Minor、ジャンル、IV7やII-Vの扱いによってサウンドは変化します。	
11	分数コード 分数コードとなる①コード転回による最低音の変化形、②別機能への変化③テンションノートのトライアード化等、いろいろなケースとサウンドを知ります。	
12	cliché クリシェ(メロディック・ハーモニック)となるパターンを学びます。	
13	試験対策 1～13を復習して試験対策を行う。	
14	前期試験	
15	FOLLOW 前期の復習及びまとめ	

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
基礎的な理論を理解した上で、楽曲の構成や構造を理解していきます。より優れた個性ある演奏に繋げるため、各楽器レベルでの消化に役立てていきます。 <実務経験のある教員等による授業科目>		
使用教材:モダンミュージックセオリー		
後 期		
到達目標		
楽譜作成(バンドスコア作成、リードシート作成)		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	コードトーン スケールから発生するコード及びそのコードトーンの関係について理解していきます。	
2	テンションノート 基本的なテンションノートを学び、そのサウンドを確認します。また、音価の長い使用を原則禁止としているアバイドノートについても説明します。	
3	チャーチモード チャーチモードとして表されるイオニアン、ドリアン、フリジアン、リディアン、ミクソリディアン、エオリアン、ロクリアンの各スケールを学びます。	
4	アベイラブルノートスケール スケールから発生するコードに対して非構成音となる2度、4度、6度の音関係を調性を通じて決定するかたちとなる内容を学ぶ。	
5	ボイスイング コード場合は、1、3、5、7と判りやすく表すが、実際に使用するものは、楽器のしくみにもより色々なかたちで順番が異なります。そのボイスイングを理解しましょう。	
6	スケール活用① Major II m7-V7に適應するドリアンとミクソリディアンについて学びましょう。この基本的なところを充分理解します。	
7	スケール活用② Minor II m7(♭ 5)-V7に適應するロクリアン、フリジアン&ハーモニックマイナー5th belowの内容を学びます。※V7(♭ 9th)のドミナントMotionに対するフォロー効果	
8	スケール活用①+② ミクソリディアン、ドリアン、ロクリアン、フリジアン&ハーモニックマイナー5th belowの整理をします。	
9	DominantScaleまとめ Major/Minorの分類、自然／変化を考えたDominant7thChordに対するスケーリングを学びます。	
10	ノンダイアトニックコードに対するScaling 楽曲進行の中に現れるダイアトニックではないコードに対しての対応を勉強します。	
11	メロディライティング① 与えられたダイアトニックコード進行に対して自分なりのメロディライティングを行います。ここでは、コードトーンを中心に経過音も使用して書きます。	
12	メロディライティング② 与えられたダイアトニックコード+Secondary.D進行に対して、半音アプローチや音程差を考えたものを音を探りながら書きます。	
13	試験対策 後期1～12を復習して試験対策を行う。	
14	後期試験	
15	FOLLOW 二年間の復習及びまとめ	

授業科目		授業時数
パソコン演習		60
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
井尻 希樹 映画の主題歌を手懸けた実績の他、作曲、編曲、ミキシングなど様々な分野でインディーズ、メジャー音楽の制作に携わる。その経験や手法を学生へ教授している。		
前 期		
到達目標		
トラックの種類やMIDIとオーディオの違いを理解し、基本的な編集能力を身につける		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス	授業内容についての解説を行い、DAWソフトウェア、パソコンの基本概要と使用方法について学びます。
2	Cubaseの基本操作①	プロジェクトの新規作成、保存、終了、トランスポートパネル、インストゥルメントトラックの作成、ドラムエディタ入力の基本を勉強します。
3	Cubaseの基本操作②	トランスポートパネルのショートカット、クオンタイズ、スナップとグリッドの設定、ベロシティの操作を学びます。
4	Cubaseの基本操作③	ミュート、ソロ、音量設定、タイミングの微調整、フラム、ラフの表現を理解していきます。
5	Cubaseの基本操作④	ゴーストノート表現を学びます。
6	MIDIの打ち込み②	パーカッション等の打ち込みを行い、グルーブ感を表現したいという感性や感覚を生み出してもらえますようにします。
7	MIDIの打ち込み③	基本的な8ビートのベースラインの打ち込みを行います。
8	MIDIの打ち込み④	少しスムーズなライン取りをしているベースラインの打ち込みを行います。
9	MIDIの打ち込み⑤	サイドギターの打ち込みに挑戦します。
10	MIDIの打ち込み⑥	ギターの打ち込み表現は他の楽器に比べて難しい内容になることも理解して貰います。
11	MIDIの打ち込み⑦	ハーモニーを堅実に捉えたキーボードの打ち込みを行い、バックグラウンドに豊さを求めます。
12	MIDIの打ち込み⑧	リズムに動きがあるキーボードを打ち込みます。
13	MIDIの打ち込み⑨	メロディパートの打ち込みとして、オリジナル楽曲のプリプロ制作を行い、作品を提出します。
14	試験	前期試験 作品提出
15	FOLLOW	前期試験内容から得られる振り返りを行います。

授業の方法		
講義 演習 実験・実技・実習		
授業概要		
DAWソフトを使用しMIDI打ち込み、MIDI音源使用方法、HDレコーディング、エフェクト、オーディオデータ編集等コンピューターベースでの操作方法、ノウハウを学びコンポーザーとして作曲に役立てる知識を学びます。＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材:ヘッドフォン・USBメモリー		
後 期		
到達目標		
DAWならではの表現ができるようになる。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	プリプロ制作①	前期に作成したオリジナルメロディ1を考察、次のオリジナル曲の構想を練っていきます。※オリジナル楽曲のプリプロ制作
2	プリプロ制作②	オリジナルメロディ2を作成、オリジナル楽曲のプリプロを行います。
3	プリプロ制作③	オリジナルメロディ2に簡単なダイアトニックコードを使いコード進行をつけていきます。※オリジナル楽曲のプリプロ制作
4	ベースのニュアンス	オリジナルメロディ2に対してベースラインを付けていきます。メロディと共に動く重要な要素なので、その表現に集中しましょう。
5	ギターのニュアンス②	続いてギターバックキング[アレンジ1]を入れていきます。
6	ギターのニュアンス③	ギターバックキング[アレンジ2]、あればリードパートを入れていきます。
7	キーボードのニュアンス	キーボードのニュアンスによって広がりが見えてきます。
8	オーディオ①	各入力された楽器類を相互関係を考えて編集していく作業(オーディオレコーディング)を行います。
9	オーディオ②	各楽器音色に関して音量／音色／定位等を考えて波形編集を行っていきます。
10	オーディオ③	↓
11	エフェクター①	オリジナルメロディ2にアレンジされて入力された各音源を使用してエフェクト設定(リバーブ)を行い、理解を深めていきます。
12	エフェクター②	オリジナルメロディ2にアレンジされて入力された各音源を使用してエフェクト設定(ディレイ)を行い、理解を深めていきます。
13	エフェクター③	オリジナルメロディ2にアレンジされて入力された各音源を使用してエフェクト設定(EQ)を行い、理解を深めていきます。
14	試験	後期試験 作品提出
15	まとめ	総括としてオリジナル音源のCD化

授業科目		授業時数
イベント制作		32
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
杉山 徹 ギタリスト、アーティストプロデューサーとしてレコーディング、ライブ演奏、イベント制作、写真撮影、映像編集など様々な経験を生かし学生の指導や育成をする。		
前 期		
到達目標		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
学校全体の行事として実施、各学科の特徴を生かしたかたちで成果発表を盛り込む。学年及び各学科・専攻により 制作レベルには違いはあるが、学校全体としての大きな目標を理解して進める。2年次は、後輩となる1年の指導もイベント制作の重要項目となる。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	全体構想 2年目の「イベント」として昨年の反省を踏まえ、各学科が習得している内容を生かせる工夫をしていく。また、全体の動きを理解して、色んな担当を任せていく。
2	イベント準備 今回のイベント趣旨やその目的等をわかりやすく解説。公募されるものの内容、学生全体で担当する具体的なものに参加していく。
3	参加内容 自分たちの参加内容をアイデア出し、企画・プランニングしていく。学科・専攻で参加するものやグループ・個人で出演やコンテンツ参加等、いろんな関わり方を知ってもらう。
4	制作① 具体的な計画術を学んでいく。具体的にする作業内容、そこから導くチェックリスト、制作スケジュールや予算等を明確にしていく。
5	制作② 担当別にグループや個人に依頼して割り振る考え方を持っていく。そのための期限等は、その次のスケジュールに影響を及ぼすことも学んで行く。
6	制作③ 広報的な内容にも理解を示していく。実際には、どれだけの集客を望めたのかの結果として出てくるものになるので、その集計やアンケート回収などの知識を学ぶ。
7	実施運営① 具体的な用意(仕込み／準備等)を行う。担当箇所の運営にあたる人のスケジュールを作成。その担当者のチェック項目を明確にするもの等を揃えて実施運営としていく。また簡単なルール・マニュアル作りも大切な要素となる。
8	実施運営② 実施運営を行い、最後の撤収作業まで責任を持って行う。その後、廃棄・保存・記録等の作業が次年度に関係してくるので、申し送り等の作業をしっかり行う。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業科目		授業時数
業界研究		68
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
杉山 徹 ギターリスト、アーティストプロデューサーとしてレコーディング、ライブ演奏、イベント制作、写真撮影、映像編集など様々な経験を生かし学生の指導や育成をする。		
前 期		
到達目標		
目指す業界の幅広い仕事内容を知ってもらう。習得した知識や実技内容との関連も考えながら、業界との接点を感じてもらう。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	軽音連イベント (8)	大阪軽音連関連イベントを学内・学外のイベント会場やホールを使用して行う。2年生は各ポジションでチーフポジションの経験も積んでもらい、その担当としての責任感を育てていく。
2	ステージ実習 (4)	学内ホールを使用した前期演奏アンサンブルの発表授業。16週で学んだ中からの選曲、または特別指定曲等を盛り込んで行われるステージ演奏。
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
イベントの制作業務、ガイダンス参加、業界での必要な資格取得も率先して取り組んでいきます。また、演奏に関しては、高い技術力を持った演奏を研究する機会もあります。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
学内外での実習内容を消化しながら、他の学科との仕事の位置関係を学んで行く。自分自身が携わる部分、また協力できる部分等を意識してもらい、創り上げていく流れを体感、理解するようにする。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	芸術鑑賞 (4)
2	軽音連イベント (8)
3	ステージ実習 (4)
4	卒業コンサート (4)
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業科目		授業時数
レコーディング実習		120
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
伊東 克彦 長年にわたりレコーディングやライブの音響エンジニアとして活躍。音響現場において必要とされる知識や技術の指導を行う。		
前 期		
到達目標		
準備～録音～ミックスダウンまでの理解と実践		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス	1年次の復習及びスタジオシステム・ワークについての説明①
2	ガイダンス	1年次の復習及びスタジオシステム・ワークについての説明②
3	録音のセッティング	実際に録音する際のセッティングが出来るようにスタジオのパッチベイの仕組みを学習し信号の流れを理解する。
4	録音のセッティング	ミキシングコンソールとスタジオのアウトボードを使つてのセッティングを理解する。
5	ボーカル録音	ヴォーカリストを呼び、セッティング準備から録音の実作業を行う(パンチインの練習及びロケーティングの練習)。
6	ボーカル録音	ヴォーカリストを呼び、セッティング準備から録音の実作業を行う(パンチインの練習及びロケーティングの練習)。
7	ミキシング編集	上記のボーカル録音のPro Toolsセッションデータをスタジオのコンソールを活用しながら編集していきます
8	ミキシング編集	上記のボーカル録音のPro Toolsセッションデータをスタジオのコンソールを活用しながら編集していきます
9	小編成でのレコーディング	ヴォーカルにピアノもしくはアコースティックギターを加えた編成でセッティングから録音までの実作業を行う。
10	小編成でのレコーディング	ヴォーカルにピアノもしくはアコースティックギターを加えた編成でセッティングから録音までの実作業を行う。
11	ミキシング編集	上記の小編成録音のPro Toolsセッションデータをスタジオのコンソールを活用しながら編集していきます。
12	ミキシング編集	上記の小編成録音のPro Toolsセッションデータをスタジオのコンソールを活用しながら編集していきます。
13	バンドレコーディング	ボーカル・ギター・ベース・ドラムのバンド編成で録音。それぞれの楽器の音色やバランスを整えて一発録音を行う。
14	ミキシング編集	バンド編成録音のマルチトラックデータのミックスを行う。
15	前期総括・補修	前期のセッションを振り返り、それぞれの理解度を確認。

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
自分たちの演奏を録音、作品として仕上げるというバンドの原盤制作的な内容で授業が行われ、ProToolsを使用したレコーディングのノウハウを学びます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材:		
後 期		
到達目標		
バンドでの録音～ミックスダウン		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	バンドレコーディング及び編集・Mix	前期で学んだセッティング方法やレコーディングの作業の流れを確認しながらセッティングを行ってみる。
2	バンドレコーディング①	バンド編成の録音を仮歌、リズム隊、オーバーダビング、ボーカル、コーラスといったセッションごとの流れで録音を行っていく。
3	バンドレコーディング①	バンド編成の録音を仮歌、リズム隊、オーバーダビング、ボーカル、コーラスといったセッションごとの流れで録音を行っていく。
4	バンドレコーディングのミキシング編集	バンド編成録音のミキシング。トラック数の多いセッションデータのミキシングをプラグインなども多数活用して編集を行っていく。
5	バンドレコーディングのミキシング編集	バンド編成録音のミキシング。トラック数の多いセッションデータのミキシングをプラグインなども多数活用して編集を行っていく。
6	バンドレコーディング②	バンド編成の録音を仮歌、リズム隊、オーバーダビング、ボーカル、コーラスといったセッションごとの流れで録音を行っていく。
7	バンドレコーディング②	バンド編成の録音を仮歌、リズム隊、オーバーダビング、ボーカル、コーラスといったセッションごとの流れで録音を行っていく。
8	バンドレコーディングのミキシング編集	バンド編成録音のミキシング。トラック数の多いセッションデータのミキシングをプラグインなども多数活用して編集を行っていく。
9	バンドレコーディングのミキシング編集	バンド編成録音のミキシング。トラック数の多いセッションデータのミキシングをプラグインなども多数活用して編集を行っていく。
10	バンドレコーディング③	バンド編成の録音を仮歌、リズム隊、オーバーダビング、ボーカル、コーラスといったセッションごとの流れで録音を行っていく。
11	バンドレコーディング③	バンド編成の録音を仮歌、リズム隊、オーバーダビング、ボーカル、コーラスといったセッションごとの流れで録音を行っていく。
12	バンドレコーディングのミキシング編集	バンド編成録音のミキシング。トラック数の多いセッションデータのミキシングをプラグインなども多数活用して編集を行っていく。
13	バンドレコーディングのミキシング編集	バンド編成録音のミキシング。トラック数の多いセッションデータのミキシングをプラグインなども多数活用して編集を行っていく。
14	作品評価	後期セッションそれぞれの完成音源を確認する。
15	後期総括	年間の内容まとめ

授業科目		授業時数
照明実習		120
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合音楽専攻
担当講師(プロフィール)		
松井 智恵美 照明センスに加え、色彩を使いこなすイラストレーターでもあるため、高いアーティスト的な感覚を学生にも伝えてくれる教育をしてくれる。		
前 期		
到達目標		
イントレ、トラスなどの仮設仕込みの習得 仮設電源ユニットの理解		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	カウンターウエイト方式吊り物昇降機構①	
2	カウンターウエイト方式吊り物昇降機構②	
3	イントレ①	
4	イントレ②	
5	トラス①	
6	トラス②	
7	仮設電源ユニット①	
8	仮設電源ユニット②	
9	仮設照明①	
10	仮設照明②	
11	ムービングライト①	
12	ムービングライト②	
13	前期試験対策	
14	前期試験実施予定日	
15	前期のまとめ	

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
照明器具の取り扱いや、調光操作卓の操作方法や照明プランや仕込みを学びます。仮設照明で必要となるイントレ、トラスなどのセッティング方法や仮設電源の取り方も学びます。 <実務経験のある教員等による授業科目>		
使用教材:		
後 期		
到達目標		
プランニングから仕込み、シュート、オペレーション、ぼらし、までの流れの理解、技術の習得		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	複合照明①	
2	複合照明②	
3	複合照明③	
4	プランニング	
5	学生自身による照明プラン仕込み①	
6	学生自身による照明プラン仕込み②	
7	学生自身による照明プラン仕込み③	
8	学生自身による照明プラン仕込み④	
9	学生自身による照明プラン仕込み⑤	
10	学生自身による照明プラン仕込み⑥	
11	学生自身による照明プラン仕込み⑦	
12	学生自身による照明プラン仕込み⑧	
13	後期試験対策	
14	後期試験実施予定日	
15	2年間のまとめ	

シラバス

総合学科

総合スタッフ専攻

授業科目		授業時数
音楽業界概論		60
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
白藤浩史 多岐にわたるイベント制作に長年携わる講師が、エンタテインメント業界、社会におけるイベントを多角的にとらえて学生に必要な知識指導する。		
前 期		
到達目標		
音楽業界の知識・ビジネスの仕組みを知る		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	学内生活説明① 施設設備について	
2	学内生活説明② 総合スタッフ専攻のカリキュラムについて	
3	学内生活説明③ 他専攻について	
4	学内生活説明④ PC類について	
5	音楽ジャンル① ロック・ポップス全般	
6	音楽ジャンル② J-POP、歌謡曲	
7	音楽ジャンル③ その他の分野	
8	研修関連についての説明	
9	音楽業界について	
10	舞台芸術①	
11	舞台芸術②	
12	ライブハウス・コンサート等 音楽を主体とする大小の興業について	
13	総復習	
14	前期試験	
15	FOLLOW	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
音楽業界の歴史的背景や成り立ち、そして、業種の仕組みやその関連業種等についても学びます。著作権、流行、ソーシャルメディアへの対応も含め業界への指向を深めていく内容です。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
音楽業界のビジネスモデルを実際に運用する力を身につける	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	楽器について
2	著作権①
3	著作権②
4	聴覚
5	一般教養[物理/科学]
6	一般教養[スポーツ/芸能]
7	一般教養[歴史/地理]
8	コンサートPA
9	レコーディング
10	映像関連
11	放送業界①
12	放送業界②
13	総復習
14	後期試験
15	FOLLOW

授業科目		授業時数
音響工学		60
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
豊島 芳樹 ホール音響、音楽録音、ラジオ番組制作、設備・メンテナンス等あらゆる形態の音響現場を経験しており、それぞれの形態を詳しく教授する。		
前 期		
到達目標		
●音に関する基礎知識の習得 ●スピーカーやマイク、コンソールなど機器の知識		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	音の伝達 音源から媒質(空気等)を伝わる理屈を知り、様々な媒質での音の進み方の違いを理解する。	
2	音の三要素 音量、音程、音色の特色を知り、音色を形作る波形、倍音構成、エンヴェロープを学ぶ。	
3	音の回折と屈折 音速、周波数特性、音程による屈折率の違い、気温変化による屈折の原理を理解する。	
4	音場とアンビエンス① 空間での音の進み方や反射による反響と残響の違いを学びます。	
5	音場とアンビエンス② 吸音率を学び、部屋の音の響きを考える。また、自然空間でのリバーブを考察する。	
6	ステレオとモノラル・立体音響 イメージシートを用いて立体感を感じる感覚を持つ。そして、疑似ステレオとモノラルの違いを理解する。	
7	音響心理効果 ドップラー効果やマスキング効果、カクテルパーティ効果、ハース効果、ビッチ効果(メル尺度)等の心理的效果について学ぶ。	
8	小テスト 1～7の音響基礎の内容から出題する小テスト実施	
9	音響機器① マイクロフォン マイクروفンの構造と動作原理、周波数特性、指向性、感度等の特性を理解します。また、近接効果等の使用例やコネクタとバランス回路を学びます。その他に特殊マイク、ダイレクトボックスについて学びます。	
10	デシベル① 基本的な単位としての意味や成り立ちを勉強します。そして計算方法、基準レベル等の実際の使用を理解していきます。	
11	デシベル② デシベルの計算練習や誤差の理解をしていきます。基準電圧、基準レベル、機器接続時の注意点を学びます。	
12	音響機器② パワーアンプ パワーアンプの特徴と種類、そしてランク、保護回路、DF等について講義を行います。	
13	音響機器③ スピーカー ダイナミックスピーカーの動作原理を理解していきます。ユニットとエンクロージャー・マルチウェイとネットワークについて学んでいきます。	
14	前期筆記試験 前期1～14週の内容の筆記試験	
15	成績発表 試験内容の解説とFOLLOW	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
音響エンジニアにとって必要な知識を講義形式で学びます。「音響映像設備マニュアル」を用いて、音の基礎から用語の解説、実際に現場で使用する機材の概要や構造を学習します。また、デジタルコンソールやレコーディングに関する基礎知識を学び、実際の現場で使える生きた知識を習得します。＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:音響映像設備マニュアル	
後 期	
到達目標	
●エフェクターに關しての基礎知識の習得 ●アナログとデジタルの違い、使用方法の習得	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	回路と電位差 音響エンジニアとして電気に関する知識を学びます。①電圧、②電流、③抵抗、④電力の理解をしていきます。
2	オームの法則 オームの法則を再度認識を深め、直流回路における抵抗器の働きについて学びます。
3	オームの法則を用いた計算練習 直流回路での合成抵抗計算、分圧と分流、電力量の計算を行います。
4	Effectorについて① ミキサーにおけるAUX回路、INSERT回路の理解。PreとPostの違いとその使用例を紹介しします。そして、ここ数週間に学ぶエフェクターの分類を行います。
5	Effectorについて② 周波数系エフェクターとして、イコライザの種類と特徴を理解してもらい、その使用方法例を説明します。
6	Effectorについて③ 空間系のリバーブとディレイの違いを理論的、数値的に理解します。そして、ディレイタイムの計算、リバーブパラメーターの解析をしていきます。
7	Effectorについて④ ダイナミック系エフェクターとして、コンプレッサー/リミッターの特徴と使用方法を学びます。エクスパンダー/ノイズゲートの特徴と使用方法も理解していきます。
8	Effectorについて⑤ 位相系エフェクターとしてフェイザー、フランジャー、コーラスの特徴を理解していきます。そしてミキシングでの使用方法も考えられるようにしていきます。
9	小テスト 電気・Effectorの内容から出題する小テスト実施
10	デジタルとアナログ① アナログとデジタルの違いや意味を理解していきます。そして、アナログとデジタル、それぞれの限界を知る。
11	デジタルとアナログ② A/D/A変換について学ぶ。サンプリング周波数と量子化ビット数の意味やアナログ機器とデジタル機器の違いを理解します。
12	デジタルとアナログ③ タイムコードとワードクロック、そして同期(シンクロナイズ)を理解していきます。
13	総まとめ 後期内容に加え前期内容と合わせた総括的なまとめ
14	後期筆記試験 後期1～12週を中心に年間内容の筆記試験
15	成績発表 試験内容の解説とFOLLOW

授業科目		授業時数
音響実習		360
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
藤原 成史 他 レコーディングをはじめ、ラジオやテレビ音声のエンジニアからディレクションに至るまで現場経験が豊富。その他イベント制作やソーシャルメディアなどへの情報発信などエンタメ業界に幅広く関わりをもっている。		
前期 到達目標		
●基本的な作業の理解と仕込みの習得 ●検定試験の合格 ●ミキシングにおける基礎の習得 ●ミキシング音源の作成		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1 PA イントロダクション	『PAとはいったいどういうことなのか?』その意味を理解し、心構えをしていく。 また基礎である、ケーブルの巻き方(ハの字巻き)の意味、方法、効果を理解し、その習得するため繰り返し練習する。	
2 ミキシング イントロダクション	ミキシングとは何なのかという概要を説明し、実習室にある機材の使用方法やマナーや心構えを説く。	
3 PA マイクについて	マイクの種類や使用シーンを覚え、また取り扱い方法についても開設する。 合わせて、マイクスタンド、小規模な現場で使用されるスピーカースタンドの組み立て方、取り扱い方も学ぶ。	
4 ミキシング 機材の説明、設定	授業で使用するミキサーなどの機材やソフトウェアの使用法や初期設定を行っていきます。 また、ミキサーの各パーツの説明も行い、ミキシングが始められる状態まで持っていけるよう、練習していきます。	
5 PA パワーアンプについて	PAの現場で実際に使用されているパワーアンプの接続方法を学び、どのような役割を担っているのかを理解をしていく。	
6 ミキシング EQの説明	ミキシングで必要なイコライジングについて、その役割や効果を説明していきます。	
7 PA マルチケーブルについて	マルチケーブルの仕組みと用途を学び、またそれをきれいに巻き取るための巻き方を習得します。	
8 ミキシング EQの使用	サンプルの楽曲を使用して、EQが実際どのように働くのかを学んでいきます。	
9 PA マイクのセッティング方法について	回線表に記載されているさまざまな記号の読み取り方を知り、それに合わせたマイクとスタンドがセッティングできるように習得していきます。	
10 ミキシング ドラムのミックス	ドラムのミキシングを行っていきます。 ドラムという楽器の特性を理解して、ミキシングの際必要なポイントを合わせて解説していきます。	
11 PA 検定①	今まで学んできた『マイクケーブル巻き・マイクスタンド立て・スタンド式スピーカ立て・マルチケーブル巻き・マイク識別』以上の5項目を決められた時間内にできるまで検定を受けていく。	
12 ミキシング 上モノのミックス	ドラム以外の所謂ウワモノ楽器の特徴を学び実際にミックスを行っていきます。 その際のポイントなどもあわせて解説していきます。	
13 PA 検定②	今まで学んできた『マイクケーブル巻き・マイクスタンド立て・スタンド式スピーカ立て・マルチケーブル巻き・マイク識別』以上の5項目を決められた時間内にできるまで検定を受けていく。	
14 実技試験		
15 ミキシング テスト返却 前期のまとめ	テストで出された各ミックスを聴き、今後の課題をフィードバックしていきます。	

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
音響機器の設営、操作やホール規模のPAの仕込み、チューニングなど実習します。またミキシングは1人1台のデジタルコンソールを使用し、音作りやバランス、エフェクター操作を学びます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材:ヘッドフォン		
後期 到達目標		
●小規模システムの理解と実践(仕込み～バラシ) ●各エフェクターの基礎の習得 ●ミキシング音源の作成		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1 PA 舞台用語 ケーブルコネクタの種類	現場でよく使用される用語や装置の名称を用途とともに学び理解していきます。 また現場でよく使用されるケーブル、コネクタの種類と規格も合わせて学びます。	
2 ミキシング 前期の復習 AUXとINSERTの使用法	前期の復習もかねて、授業で使用する機器の設定を行います。 また今後、エフェクトかけるうえで重要なAUXとINSERTの違い、使用方法、使用シーンを理解していきます。	
3 PA ミキシングコンソールの基本 操作	ミキシングで学んだことに基づき、正しい車の操作手順を実践し、実際の信号の流れを確認し理解していきます。	
4 ミキシング リバーブの説明・使用	リバーブの種類や使用方法、効果を学びます。 そして、ミキシングでかける際の設定、接続方法をサンプル曲を使用し実践しながら学んでいきます。	
5 PA 小規模PA①	マイクからスピーカまでの信号の流れを「ブロック図」を用いて理解できるようになり、またその流れを簡単な「ブロック図」で表すことができるようになる。	
6 ミキシング ディレイの説明・使用	ディレイの種類や使用方法、効果を学びます。 そして、ミキシングでかける際の設定、接続方法をサンプル曲を使用し実践しながら学んでいきます。	
7 PA 小規模PA②	ブロック図に基づいての機材セッティングや配線ができるようになり、フロントスピーカ、モニタースピーカへの役割とその仕組みを実践しながら学んでいく。またBOX型のスピーカへのスタッキング(ラッシングを含む)方法なども習得していく。	
8 ミキシング 2Trackの編集	バラチャネルでミックスしたものを2Trackにバウンスする方法を学び、またそこへのエフェクトのかけ方やコツを学びます。	
9 PA トータルシステム①	今までに学んだ小規模PAシステムの復習として、マイク・エフェクター・フロントスピーカ・モニタースピーカなどをセッティングし、その結線方法と信号の流れを再確認する。	
10 ミキシング テスト課題のミックス	今まで学んだ、ミキシングの知識、テクニックを生かして、課題曲のミキシングを行います。	
11 PA 音出し	トータルシステムをセットアップした上で、そのシステムを使って実際に音を出し、結線が確実にできているか?などをチェックしていく。	
12 ミキシング テスト	名前を伏せた状態でミックスを聴き、個人で採点をしていく。	
13 PA グラフィックイコライザー・ チューニングについて	PAの現場における「グラフィックイコライザー」の役割とその必要性を理解し、それを使用したセッティングができるようになる。また、それを使用したスピーカへのチューニング方法を知り、自分で行えるように練習していく。	
14 ミキシング 成績発表 年間のまとめ	前回行ったミキシングの採点の結果をしていきます。 また、年間を通して行ったミキシングを振り返り、2年次のミキシング、PAにつなげていきます。	
15 PA ラインアレイスピーカース テム	大規模なPA現場で使用される「ラインアレイスピーカ」を使用したシステムのセッティング方法を学び、その構造や特徴を理解する。また、グループごとにセッティングと回線チェックを行い、安全で確実なセッティング方法を習得する。	

授業科目		授業時数
照明実習		120
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
川原 正弘 数々の舞台、イベント現場で照明を担当、新旧の機材に精通しており、特に初心者への教育には定評がある。自らの会社でも後進の育成に励んでいる。		
前 期		
到達目標		
●基本的な器具の扱いや仕込みの習得 ●検定試験の合格		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価) 小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	オリエンテーション 校舎内に設置されるホールにおいて実習を行っていく。その作業での安全基準を説明、舞台機構や名所、器具の取り扱い方法を解説する。	
2	吊り仕込みの基礎① SUSでの吊り込み方法を学習、ハンガーや落下防止ワイヤー等、安全対策について理解をしていく。大まかな回路の仕組みについても勉強していく。	
3	吊り仕込みの基礎② SUS仕込みでの2又ケーブルを使用した回路取りを学び、仕込み図の記号や名称等も理解する。	
4	吊り仕込みの基礎③ SUS仕込みでの延長ケーブルを使用した回路取りを行う。	
5	吊り仕込みの基礎④ SUS仕込みでの延長ケーブルと二又を使用した回路取りを学習する。	
6	置き仕込みの基礎① 置き仕込みで使用するスタンドとオベタの取り扱い作業を行い、ステージ上に影響がある置物のケーブル処理をしっかり理解する。	
7	置き仕込みの基礎② ハイスタンドの構造と器具のセッティング、配線方法を実践していく。	
8	シュート棒の使用 ステージ上の吊り器具に使用するシュート棒の操作方法やシュート時の指示と意味を理解する。	
9	CL・FRのシュート シーリングスポットライトとフロントサイドスポットライトの役割とシュート方法を実習する。	
10	吊り置き仕込み① 吊り仕込みから置き仕込み、シュートまでの一連の作業を行う。仕込みの手順など確認しつつ確実にできるように学習する。	
11	吊り置き仕込み② ↓	
12	ピンスポットライトの基礎① 1kwクセノンピンスポットライトの構造と操作方法、バルブの交換方法を学び、基本的な操作の練習をする。	
13	ピンスポットライトの基礎② ピンスポットライトの狙いの取り方、カットイン、カットアウトやフェードイン、フェードアウト等の違いを学び練習をする。	
14	模擬試験 企業研修見極め試験対策として実際の試験と同様の形式で模擬試験を行い作業の確実性とスピードアップを図る。	
15	企業研修見極め試験 企業研修見極め試験の実施	

授業の方法		
講義・演習・実験・実技(実習)		
授業概要		
照明器具の取り扱いや実践に近い形での「仕込み」を学習します。また、調光操作卓の操作方法や楽曲とキューシートに合わせて、オペレートを行います。 <実務経験のある教員等による授業科目>		
使用教材:革手袋		
後 期		
到達目標		
●調光操作卓の基礎習得 ●オペレート実践		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価) 小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	調光周辺機器について① 調光ユニット、D/Aコンバータ、調光卓の接続方法を説明、それぞれの器機の役割りを学ぶ。	
2	調光周辺機器について② 調光操作卓を操作する中で一番基本となるフェーダーパッチとABフェーダーの概念を学習する。	
3	調光周辺機器について③ 調光操作卓の機能にあるサブマスターフェーダーについて理解、RECや修正の仕方等を学ぶ。	
4	シュート シュートする際の指示の出し方について理解していく。相手に伝えるためのコミュニケーション、確実な指示について勉強する。	
5	仕込み～バラしまでの反復練習① 実際の現場と同じように、仕込み→パッチ→シュート→バラシという流れに沿った一連の作業を反復練習していく。	
6	仕込み～バラしまでの反復練習② ↓	
7	オペレート実習(アップテンポ)① 1曲内の照明演出に関するオペレーティングを行っていく。資料として使用されるキューシートの読み方等も同時に学習する。	
8	オペレート実習(アップテンポ)② 先週と同じアップテンポの課題曲を使用。サブマスターフェーダーを使用しシーンを変えるタイミングやアオリ方などを学習する。	
9	オペレート実習(アップテンポ)③ (学生個人が、実際にオペレートしていけるように指導していく。)	
10	オペレート実習(スローテンポ)① 次にスローテンポの課題曲を使用。そのオペレートについて学習していく。曲構成を示すキューシート内容の理解も進める。	
11	オペレート実習(スローテンポ)② 先週と同じくスローテンポの課題曲を使用。ABフェーダーを使用したオペレート方法を学習する。	
12	オペレート実習(スローテンポ)③ (学生個々が、自分以外の演出にも学ぶポイントを探せるような指導をしていく)	
13	後期試験対策 グループでの仕込み作業が、円滑に進むように個々が自分自身の立ち位置を考えながら動いていく。	
14	後期試験 仕込み→パッチ→シュート→バラシという一連の作業やオペレーションに関する内容をレポート提出	
15	1年間のまとめ 一年間で学習したことの復習及びFOLLOW	

授業科目		授業時数
企画制作		60
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
小池 敏 演奏者・作家として複数のメジャー契約。イベント主催者として多数のイベントを制作。プロダクション業務の経験もあり業界経験が多岐にわたる		
前 期		
到達目標		
製作者としての感覚をつかむ 制作の仕事の進め方		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス①	イベント実施に向け、制作者としての考え方、ステージ関係の基礎知識、イベント制作にかかわる資料作成を学ぶ
2	ガイダンス②	・企画書 ・タイムテーブル ・運営マニュアル
3	ガイダンス③	・進行台本 ・セッティング表
4	音楽イベント制作①	ベーシックな音楽イベントを素材として、実際に資料作成等の準備作業を行います。ここではシンプルな内容で全体の流れをつかみます。
5	音楽イベント制作②	・公演概要、プレゼンテーション資料作成 ・ステージ進行、アーティスト管理、来場受付の各セクション業務
6	音楽イベント制作③	・担当者自身、各セクションの動きの中から振り返り
7	音楽イベント制作④	
8	音楽イベント制作④	
9	企画制作イベント①	共有スペース等を利用した小規模イベント制作。アイデアからの企画立案に重点を置いて進めていきます。
10	企画制作イベント②	・企画書 ・プレゼンテーション資料作成 ・タイムテーブル作成
11	企画制作イベント③	・MC台本作成 ・集客の工夫
12	企画制作イベント④	・ステージ進行、アーティスト管理 ・担当者自身、各セクションの動きの中から振り返り
13	企画制作イベント⑤	
14	学園祭制作①	学園祭に向けた企画制作。人を呼び込むためのコンテンツを企画していきます。
15	学園祭制作②	・企画のアイデア出し ・集客の工夫～SNS ・イベントプレゼンテーション

授業の方法	
講義 ・ 演習 ・ 実験 ・ 実技 (実習)	
授業概要	
ライブイベントの企画制作をする実習です。学内の様々な施設を使い、ライブイベントを実施することにより、総合スタッフで学ぶ照明・音響・映像各分野の連携を理解することが出来ます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
イベントを企画し、実施に向けた制作が出来る イベント実施の進行業務の理解	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	学園祭制作③ 学園祭のライブイベント制作、コンテンツ制作を行います ・コンテンツ企画
2	学園祭制作④ ライブ出演者情報、コンテンツ情報 の発信 ・タイムテーブル ・進行台本
3	学園祭制作⑤ 音響・照明との連携 ・出演者への対応
4	学園祭制作⑥
5	学園祭制作⑦
6	ライブハウスを想定したイベント制作 ライブハウス規模のスペースを想定したライブイベントの企画制作。コンセプトから出演者募集を行い学内外からの集客を考えます。
7	ライブハウスを想定したイベント制作 ・コンセプト～企画立案 ・イベントプレゼンテーション
8	ライブハウスを想定したイベント制作 ・出演者募集告知 ・タイムテーブル作成 ・進行台本作成/MC台本作成
9	ライブハウスを想定したイベント制作 ・出演者の対応 ・音響/照明との連携
10	ライブハウスを想定したイベント制作 ・集客の工夫 ・ステージ進行、アーティスト管理
11	HALLを使用するイベント制作 HALL規模で行うコンサート企画制作年度末実施のコンサートイベントを企画 ・コンセプト～企画立案
12	HALLを使用するイベント制作 ・イベントプレゼンテーション ・出演者募集告知
13	HALLを使用するイベント制作 ・タイムテーブル作成 ・進行台本作成/MC台本作成
14	HALLを使用するイベント制作 ・出演者の対応 ・音響/照明との連携
15	HALLを使用するイベント制作 ・集客の工夫 ・ステージ進行、アーティスト管理

授業科目		授業時数
映像制作		120
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
村上 健 映像撮影から制作、音楽制作までマルチにこなす。様々な種類の映像作品を制作することが出来る		
前 期		
到達目標		
●映像制作における基礎の理解 ●検定試験の合格		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	オリエンテーションと授業概要の紹介	
2	静止画作品制作①	
3	静止画作品制作②	
4	静止画作品制作③	
5	静止画作品制作④	
6	静止画作品制作⑤	
7	映像制作概要	
8	ショートムービー制作①	
9	ショートムービー制作②	
10	ショートムービー制作③	
11	ショートムービー制作④	
12	ショートムービー制作⑤	
13	ショートムービー制作⑥	
14	ショートムービー制作⑦	
15	ショートムービー制作⑧	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技 実習	
授業概要	
映像の企画・撮影・編集を学習します。企画書・絵コンテ作成・スケジュール管理などの制作進行や構図、カメラ操作、静止画素材の加工、動画編集ソフトの操作、カット割り等知識を身につけます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
●用途に応じた映像の企画(イベント) ●映像制作の基礎技術の習得	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	ショートムービー制作⑨
2	ショートムービー制作⑩
3	ショートムービー制作⑪
4	ショートムービー制作⑫
5	ショートムービー制作⑬
6	ショートムービー制作⑭
7	ショートムービー制作⑮
8	ショートムービー制作⑯
9	告知ポスター制作①
10	告知ポスター制作②
11	告知ポスター制作③
12	告知ポスター制作④
13	告知ポスター制作⑤
14	告知ポスター制作⑥
15	告知ポスター制作⑦

授業科目		授業時数
照明工学		60
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
野沢 瞳 確実性をモットーとした作業手順を伝授する。現場でのあらゆるトラブルに精通しており、その説明は具体的に理解しやすい。		
前 期		
到達目標		
知識として必要な舞台用語、歴史、照明用語や、直流電流など、舞台及び、照明用語の習得。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	オリエンテーション 自己紹介・ファーストレポート(CATに入学するきっかけになったこと等)尺貫法・インチ法・舞台についての説明	
2	舞台の名称編 CATホール・CAT第2ホールの大きさについて説明する。また、舞台の名称についても解説	
3	照明設備の名称編 1. サスペンションライト2. ボーダーライト等照明設備の基本的な部分の名称について解説	
4	照明器機編 フラッドライト・スポットライト等の照明機材についての名称を解説する	
5	カラーフィルター編 ポリカラーフィルターの色番号。色温度変換フィルター・拡散フィルター・その他のフィルターについて解説	
6	照明器具の重さについて 照明で使用する機材の重量を予測し記入する。また、実際に機材の重量を測定し覚える	
7	シューティングについて 地明かり・斜め明かり・フロントサイド・シーリング・サイドスポットの明かりの当て方を解説。また、さまざまな当て方がある事も学ぶ	
8	単位について SI基本単位・SI組立単位・接頭語について学ぶ。また、電気についての考え方、東日本・西日本での周波数の違いについても解説する	
9	直流電源 電池の仕組みを説明しながら直流電源の仕組みについて学びます。また、さまざまな電池の種類を説明し、直列接続・並列接続についてかいせつします	
10	感電および短絡(ショート)について 感電および短絡(ショート)について説明。スライダックを使用して指での感電を体験する。また、実際にショートも体験する	
11	電気の抵抗 電気を扱う上でもっとも基礎となるオームの法則について学習します	
12	オームの法則 先週学習したオームの法則について、さまざまな練習問題を通して学習していきます	
13	電力について 電力・電力量の計算について解説します。同時に練習問題を通して学習していきます。また、電気の3作用(磁気、発熱、化学)についても説明します	
14	前期試験	
15	試験返却と試験問題の解説 前期で学習したことを振り返り苦手とする分野を中心に復習し後期授業に備える	

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
舞台用語や歴史、直流・交流電流などの電気的な知識を学びます。その他、調光操作卓の仕組み、電子工学について知ることにより、実習など実技作業の学びが定着するようになります。 <実務経験のある教員等による授業科目>		
使用教材:舞台テレビジョン照明 基礎編		
後 期		
到達目標		
知識として必要な直流電流、交流電流などの電気的な知識の習得。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	負荷の接続 直列接続・並列接続を復習しながら抵抗(負荷)についても学びます	
2	オームの法則① 直列接続した2つの抵抗を含む回路図を使って練習問題からそれぞれの合成抵抗を求める	
3	コネクター・プラグの許容電流、許容電圧 さまざまな種類のコネクター・プラグの許容電流、許容電圧について説明します。また、電線の許容電流、キャプタイヤケーブルの許容電流についても学習します	
4	交流 交流電流についての説明。また、ここでは交流が使用される利点についても解説します	
5	交流における電圧・電流・抵抗の関係 抵抗・コイル・コンデンサーに交流電圧を加えた時に流れる電流について学びます	
6	皮相電力・交流の電力と力率 電力を各必要な場所へ供給するための配電方法について解説し学習する	
7	配電方式① 単相交流・三相交流を元に交流電源の配電方法について図を塚手説明します	
8	配電方法② 交流電源の中でもっともシンプルな単相二線式と単相三線式の配電方法について学びます	
9	配電方法③ 交流電源の中でもっとも効率の良い三相三線式・三相四線式の配電方法について学びます	
10	仮設電源 常設の調光ユニットが足りない場合や、常設ユニットがない野外イベントなどの説明を入れながら、仮設電源について設営・撤収の段取り等を学びます	
11	調光ユニットへの負荷の接続 ニュートラル線が万が一断線した場合を問題形式で、どのような症状が起こるのかを学びます	
12	ユニットの入れ込み 1Φ3Kwのユニットの入れ込み	
13	補足 年間の授業内容を通した補足説明を行っていきます	
14	後期試験	
15	試験返却と試験問題の解説 1年間のまとめ	

授業科目		授業時数
パソコン演習		60
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
佐久本 優子 パーソナルコンピューター、ビジネスソフトの指導員として経験豊富。論理的思考を学生に植え付けるのが非常に上手い。		
前 期		
到達目標		
●Word・Excel・PowerPointの基本操作を習得する		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)小テスト(その他)		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	Wordの基本操作、文字入力 起動～画面構成～保存～終了までの基本操作と、IME/パッドの使い方を練習/フォルダ操作について学ぶ	
2	W:文書作成① (ページ設定・オートフォーマット・範囲選択・編集・装飾) 表のないビジネス文書の作成	
3	W:表作成とイラストの利用 表(挿入・レイアウト変更・線種変更・塗りつぶし)とイラスト(ワードアート・クリップアート)を入れたビジネス文書の作成	
4	W:図形描画/課題作成 (図形・テキストボックス・SmartArtの挿入と書式設定) 図形描画の機能を使用した文書作成/W:課題作成	
5	Excelの基本操作と 数式・簡単な関数の挿入 簡単な関数(SUM AVERAGE MAX MIN)の入った表を作成	
6	E:関数の活用①(絶対参照 IF RANK ROUND 等) 関数を利用した表を作成	
7	E:グラフの作成と表の書式 設定 縦棒や円グラフの挿入～構成要素～書式設定と表の書式設定 (表示形式・列と行の操作・セルの挿入や削除)を学ぶ	
8	E:印刷機能とシートの操作 ページレイアウト～ページ設定～ヘッダーとフッター機能の 学習と、シート名変更～3D集計を学ぶ/課題発表	
9	E:課題作成 これまで学習した機能を使った課題を仕上げる	
10	E:条件付き書式・データの 入力規則 条件値を指定して書式を設定する・カラースケールなどの 新機能を学習する・データの入力規則を学習する	
11	Power Pointの基本操作 ブレースホルダーへの入力・スライドの追加・箇条書き・デザ イン・アニメーション・画面切替効果について学ぶ	
12	P:画像の書式設定・印刷設 定/課題作成 取り込んだ写真等に書式を設定する ノート機能・配布資料としての印刷方法を学ぶ/課題作成	
13	P:課題作成 課題を作成する	
14	E:基礎編の復習 前期テスト 前期で学習した内容を元に、作品を完成させる	
15	P:プレゼン スライドショーの機能を学習し、各自リハーサル機能を利用 して、作成済の課題を発表する	

授業の方法	
講義(演習) 実験・実技・実習	
授業概要	
パソコンを使用し、ビジネスソフトの使用方法を学びます。様々な書式、表やグラフの作成、プレゼンテーションの資料などを制作します。また、DTPでは業界標準のIllustratorやPhotoshopの基本操作を学びます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
●Officeソフトの機能を使いこなす ●考えて資料を作成することができるようになる	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)小テスト(その他)	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	フォルダ操作 フォルダ操作と他のソフト(ペイント)との連携 その他スクリーンショット機能
2	W:見栄えの良い文書の編 集 (段組み・改ページ・タブとリーダー・インデント・ページ罫線・ ページ番号・置換)
3	W:図形描画の応用・Excel データの利用 複数の図形を組み合わせて文書を作成する
4	W:課題作成1 複数ページにわたる文書の作成
5	W:グリーティングカードの作 成 年賀状、クリスマスカード、誕生日カード、バレンタイン、暑中 見舞い、様々なレイアウトを考える
6	P:アニメーションを組み合わ せる・プレゼンとは 開始・強調・終了・軌跡を組み合わせて 効果的なプレゼンの仕方を学習する/企画を考える
7	P:企画書作成 今まで習得したことを応用し、各自でテーマを決め 企画書を作成する
8	P:企画書作成 今まで習得したことを応用し、各自でテーマを決め 企画書を作成する
9	P:リハーサル・発表 リハーサルを入念に行う プレゼンを行う・他人の作品の評価をする
10	P:発表 プレゼンを行う・他人の作品の評価をする 総復習
11	E:復習 前期で学習した内容を元に、表を完成させる
12	E:表の活用 (表示形式・入力規則・シートの保護) 入力を補助する機能や、見栄えの良い資料の作成方法を学 ぶ
13	E:課題作成 これまで学習した機能を利用し、課題を作成
14	後期テスト 後期で学習した内容を元に、作品を完成させる
15	後期テスト振り返り

授業科目		授業時数
一般教養		60
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
山田敏子 「現代マナーズ研究会」代表。ビジネスマナー研修を軸に関西を中心企業・団体・大学等で人材育成に携わる。		
前 期		
到達目標		
●社会に出て必要なビジネスマナーを身に付ける ●ビジネスにふさわしい応対や尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い分けをマスターする		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	授業概要の説明・動機付け この授業の趣旨、目的を理解し、学生生活と職場の違いや仕事の取り組み方について説明し、この1年で達成したい目標を設定する。	
2	自己紹介の仕方 職場での挨拶、公の場での自己紹介の仕方を学び、基本形に則した手法で実技を取り入れながら学習する。	
3	挨拶・お辞儀の重要性 基本の立ち姿や立礼・かけ礼三種を接遇用語を活用し実技を取り入れながら身に付ける。	
4	話し方・あがり対処法 あがらずに人前で自分の考えを述べることができるよう様々な手法を取り入れながら実技を行う。	
5	3分間スピーチ 人前でのスピーチの基本形を知り、テーマを設定したスピーチを交えながら問題点、注意点を出し合い学ぶ。	
6	企業の求める人間像 これから始まる就職活動や企業研修に向けて、求められる人材を集団面接や新入社員教育でも用いられるグループディスカッション形式で意見を出し合い学ぶ。	
7	電話でのアポイントメントの取り方 就職活動や企業研修等で企業に電話をかける際の手順や失礼にならない話し方を学ぶ。	
8	名刺交換 名刺の渡し方や受け方、名刺を切らしている時などの対処法の仕方等、実践を取り入れながら学習する。	
9	敬語の基本 ビジネスにふさわしい言葉や尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い分けを学び、実践できるよう理解する。また、二重敬語などの誤った使い方や、ビジネス上での人の呼び方を学び実際に場面を設定して実践する。	
10	敬語の応用 お客様に対する接遇用語や使い方を学び、実際に場面を設定して実践し、注意点、問題点を出し合い深める。	
11	電話応対 電話対応で会社のレベルも判断されるということから正しい電話の受け方やかけ方、取次ぎ方などを説明し実践を取り入れながら学習する。	
12	電話応対応用 不在時に行き届いた臨機応変なメモの作成、また苦情電話を上手に受け、固定客につなげる手法を実技を取り入れながら学習する。	
13	ビジネスでの贈答の心得 慶事や弔事のマナーを知り、仕事で発生した場合に備え慰斗や金封紙の種類や使い分け、送る時期等を学ぶ。	
14	前期試験実施日 前期内容より出題	
15	命令の受け方 安心して仕事を任せられるための指示・命令の受け方のポイントを学習する。	

授業の方法	
講義 演習 実験・実技・実習	
授業概要	
社会人としての一般教養を学びます。挨拶や敬語、電話応対、名刺交換などのビジネスマナーや、履歴書の書き方や面接など就職に役立つスキルを学習します。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
就職活動の流れをつかみ、各々の場面で必要なマナーやスキルを習得する。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	報告の仕方 ビジネスでは欠かせない口頭・文書による報告の仕方や信頼されるための報告のポイントを学習する。
2	自己分析シート 自分にとって働くとはどういうことを考え、就職活動の日程を確認し、自身の就職についての思いを整理して伝えられるようにする
3	エントリーシート 企業へのアプローチのファーストステップとなるエントリーの仕方や伝わりやすい表現法について学ぶ。
4	履歴書 就職活動時に必要となる履歴書の書き方を、見た目の印象を大切にしながら良い例と悪い例を知った上で作成する。
5	履歴書 履歴書の書き方、特に志望動機・自己アピールの仕方にポイントを絞り作成する。
6	履歴書 各々添削を受けた上で清書を仕上げて提出する。
7	社外文書の形式・添え状・封書の書き方 頭語結語・時候の挨拶などビジネス文書の基本構成を学び、添え状を作成すると共に、文字の大きさやバランスを考えた封書・はがきの表書きを学ぶ。
8	自己診断チェック 人物本位と言われる面接で自分自身について聞かれる質問を想定し、いかにポイントをおさえてアピールするかを学ぶ。
9	企業診断・学生診断チェック 会社に関してどういった項目を調べ準備すれば良いか、また学生生活について聞かれるであろう内容について準備する。
10	一般教養チェック・身だしなみ他 当日の注意 一般教養に関して聞かれる内容の準備、第一印象の重要性、当日の持ち物や控え室などでの注意事項を学ぶ。
11	面接のマナー 面接室での立ち振る舞いや言葉遣い、座席の順位などを学び、就職活動時の面接に備える。
12	模擬面接 質疑応答を交えながら実践形式で行い、各人に合ったアドバイスを受け、注意点や問題点を出し合い深める。
13	模擬面接 質疑応答を交えながら実践形式で行い、各人に合ったアドバイスを受け、注意点や問題点を出し合い深める。
14	後期試験実施日 後期内容より出題
15	後期試験返却と解説 立食パーティーのマナー 会社の各種行事では立食パーティーが主流である。歓談を目的とし、マナーをわきまえた振る舞いを身に付けるよう実技を交えて学ぶ。

授業科目		授業時数
イベント制作		40
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
白藤浩史 多岐にわたるイベント制作に長年携わる講師が、エンタテインメント業界、社会におけるイベントを多角的にとらえて学生に必要な知識指導する。		
前 期		
到達目標		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
学校全体の行事として実施、各学科の特徴を生かしたかたちで成果発表を盛り込む。学年及び各学科・専攻により制作レベルには違いはあるが、学校全体としての大きな目標を理解して進める。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	全体構想 過去のイベントを参考に、「イベント」といわれる催事についての解説を行い、各学科が習得している内容を生かすヒントを与えていく。そして、大きな仕組みの理解をしてもらう。
2	イベント準備 今回のイベント趣旨やその目的等をわかりやすく解説。公募されるものの仕組みや学生全体で担当する具体的なものを紹介していく。
3	参加内容 自分たちの参加内容をアイデア出し、企画・プランニングしていく。学科・専攻で参加するものやグループ・個人で出演やコンテンツ参加等、いろんな関わり方を知ってもらう。
4	制作① 具体的な計画術を学んでいく。具体的にする作業内容、そこから導くチェックリスト、制作スケジュールや予算等を明確にしていく。
5	制作② 担当別にグループや個人に依頼して割り振る考え方を持っていく。そのための期限等は、その次のスケジュールに影響を及ぼすことも学んでいく。
6	制作③ 広報的な内容にも理解を示していく。実際には、どれだけの集客を望めたのかの結果として出てくるものになるので、その集計やアンケート回収などの知識を学ぶ。
7	実施運営① 具体的な用意(仕込み／準備等)を行う。担当箇所の運営にあたる人のスケジュールを作成。その担当者のチェック項目を明確にするもの等を揃えて実施運営としていく。また簡単なルール・マニュアル作りも大切な要素となる。
8	実施運営② 実施運営を行い、最終的なものとしての撤収作業。準備時間よりも早く終わるものだが、廃棄・保存・記録等の作業が次年度に関係してくるものとなる。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業科目		授業時数
業界研究		60
学年	学科	専攻
1	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
白藤浩史 多岐にわたるイベント制作に長年携わる講師が、エンタテインメント業界、社会におけるイベントを多角的にとらえて学生に必要な知識指導する。		
前 期		
到達目標		
目指す業界の基本的な仕事内容を理解していく。他の実習授業との兼ね合いも関連していくことを十分に理解して学内外のイベントや実習に触れていく。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	新歓コンサート (4)	
2	軽音連イベント (8)	
3	検定対策[音響] (10)	
4	検定対策[照明] (10)	
5	企画制作イベント (2)	
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
依頼される学内外のクライアント主導イベントの制作業務、ガイダンス参加、業界での必要な資格取得も率先して取り組んで行きます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
学内の基本的な実習内容を理解した上で、他の学科との関係性を考える。自分自身が携わる部分を意識出来るようにしてもらい、その業界での仕事スタイルや慣習を学ぶ。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	軽音連イベント (8)
2	就活対策講座 (4)
3	企画制作イベント (2)
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業科目		授業時数
音楽業界概論		60
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
白藤浩史 多岐にわたるイベント制作に長年携わる講師が、エンタテインメント業界、社会におけるイベントを多角的にとらえて学生に必要な知識指導する。		
前 期		
到達目標		
音楽業界のみならず広く一般に通ずる社会常識を理解する		
評価方法		
筆記試験・実技試験(実習評価) 課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1 年間スケジュール	2年生の年間スケジュールの説明、就職対策講座や会社説明会等の仕組みとその内容を改めて解説します。	
2 検定試験	再度、検定試験等の受験を説明、2年間で色んなものを勉強して検定取得を目指します。	
3 面談[就職活動相談]	個々に時間を取って、方向性・活動状況・家族の同意・自分自身が迷う事等をリサーチしていきます。	
4 面談[就職活動相談]		
5 面談[就職活動相談]		
6 CD制作の仕組み①	CD制作工程を、レコーディング(原盤制作)も入れて理解していきます。企画、楽曲A&R、アレンジ企画、ミュージシャンPU、スタジオ、エンジニア、ジャケット撮影、リリース等、商品を作るために沢山の人が動きます。	
7 CD制作の仕組み②	プレスされたCDが、どのようなかたちで流通するのか? また、売上げはどういう方法で加算されるのか等、制作～流通、消費者に届くまでを勉強します。	
8 検定試験対策①	模擬試験等を用意して実際に実施をします。採点は、学生自身もしくは隣同士で採点を行い、弱い部分等をPULしていきます。	
9 プロダクションにやイベント制作について	実際の現場では、まずイベント・コンサート・(レコーディング)等の企画を起こして「実施を企てる」ところからスタートします。皆さんの現場は、その後に発注されるものでもあります。	
10 舞台制作会社について	イベントホールやコンサートホールの管理についての仕組みを学びます。また、野外特設等で何も無いところからステージを製作していく会社の存在にも着目します。	
11 照明会社について	照明会社のホール管理部門、イベント特設部門等の仕組みについて理解を深めます。	
12 映像関連について	映像に関しては、TV局の撮影・収録・編集(送出)やイベント現場でのスクリーン設置、映像収録やライブ中継等、多岐にわたります。	
13 総復習	個々の方向性をしっかり固めて、就職活動をしていきます。その為の補足的内容も付け加えて行きます。	
14 前期試験		
15 FOLLOW	研修先等での行動をしっかりと行い、自分が吸収した内容を見直し、後期に臨みます。	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
音楽業界の歴史的背景や成り立ち、そして、業種の仕組みやその関連業種等についても学びます。著作権、流行、ソーシャルメディアへの対応も含め業界への指向を深めていく内容です。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
最終教育機関として相応しい教育を身に着ける	
評価方法	
筆記試験・実技試験(実習評価) 課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1 音楽配信の仕組み①	CDの流通は激減、配信によって音楽が購入されていきます。基本的な流れを理解してもらい、今後の変化にも対応します。
2 音楽配信の仕組み②	音楽配信のおかげで今まで、知ることができなかった、様々なミュージシャンたちの演奏も見ることが出来ます。各国のアーティストが発信を続けて行く限りない世界に突入している現状です。
3 裏方に対しての表方[運営]について	ステージ上もしくは、ステージに関連する内容を行う裏方さんと、そのイベントやコンサートを観覧するお客様の案内・誘導を行う「表方」が存在します。みんなの仕事は、そのチケット代で成立しています。
4 学園祭準備①	総合スタッフ専攻1、2年が協力して、学園祭制作内容を支えています。そのための配分や担当を考えて進めて行きます。実行委員会からの情報を共有します。
5 学園祭準備②	内容が明確にわかってくると、それに向かった準備を、1年、2年で協力して行います。2年生は先輩として、1年生を教える立場でもあります。
6 学園祭準備③	現場を仕込む段取り、事前に作られたプランを参考にみんなで協力していく体制を作っていく、本番に臨みます。
7 面談[就職活動相談]	時期的には、最終の就職相談時期となります。再度、方向性・活動状況・家族の同意・悩む内容に対してキャリアスタッフと共に相談していきます。
8 面談[就職活動相談]	
9 オリジナリティ	自分にあると信じたい「オリジナリティ」の勉強です。意外に音楽内容では無い可能性もありますが、自分の長所を見極めていけると嬉しく、自信にも繋がってきます。
10 プレゼンテーション1週目	2週に渡って、「自分の将来像」を自分なりにまとめ、自己分析も含め、自分の説明を考えてもらい、発表する場面を作っていきます。
11 プレゼンテーション2週目	
12 これからの音楽業界	皆さんが進む音楽業界ですが、また5年もすれば、流行りもシステムも変化していきます。ただ、過去の流行を迎えると、この先が見えるかも知れません。
13 総復習	作業も含まれ、自分の周りの専攻だけではなく状況で作業をしていきます。就職に役立つ内容として理解してください。
14 前期試験	
15 FOLLOW	任される内容に対して答えていける実力を培ってもらえれば大丈夫です。現場は「人」ありきのものなので、コミュニケーション力をUPさせる努力をいきましょう。

授業科目		授業時数
音響工学		60
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
豊島 芳樹 ホール音響、音楽録音、ラジオ番組制作、設備・メンテナンス等あらゆる形態の音響現場を経験しており、それぞれの形態を詳しく教授する。		
前 期		
到達目標		
PAとレコーディングのシステム、デジタルの理解		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	レコーディング①	録音機器の歴史、スタジオの仕組み
2	レコーディング②	レコーディングコンソールの知識① ・インラインとI/Oモジュール ・スプリットコンソールとの違い ・HAとEQ・インサートエフェクト
3	レコーディング④	パッチベイ ・タイプ別接続方法 ・バンタムケーブルの取扱い ・モニターシステムの使用法
4	レコーディング⑤	モニターシステム ・パワーアンプ ・パワードスピーカー ・ラージモニターとニアフィールドの使い分け
5	レコーディング⑥	録音機 ・マスターレコーダー ・ProTools
6	レコーディング⑨	ProTools ・簡単なオペレート ・ミックスモードとトラックモードの理解
7	レコーディング⑩	ここまでの纏め、小テスト
8	PA①	PA機器の歴史 ・舞台芸術の種類と歴史 ・舞台技術概論
9	PA②	舞台と設備 ・舞台装置 ・音響設備 ・照明設備
10	PA③	安全衛生 ・関連法令 ・実例紹介
11	PA④	PA機材① ・スピーカーシステム ・パワーアンプ ・プロセッサ(チャンネルディバイダー)
12	PA⑤	PA機材② ・アナログコンソール ・デジタルコンソール ・ネットワークシステム
13	PA⑥	PA機材③ ・マイク、アクセサリ、スタンド ・ケーブル各種 ・アウドボード
14	テスト	前期内容から
15	テスト返却	解答の解説

授業の方法		
講義 演習・実験・実技・実習		
授業概要		
音響エンジニアにとって必要な知識を講義形式で学びます。「音響映像設備マニュアル」を用いて、音の基礎から用語の解説、実際に現場で使用する機材の概要や構造を学習します。 <実務経験のある教員等による授業科目>		
使用教材:音響映像設備マニュアル		
後 期		
到達目標		
基礎知識から幅を広げ、実際の現場で使用できる技術や応用力を学ぶ		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	エフェクタ 復習編①	周波数系 空間系 アウトボードとデジタルコンソールDSPでの違い
2	エフェクタ 復習編②	ダイナミック系 アウトボードとデジタルコンソールDSPでの違い
3	エフェクタ 復習編③	位相系 アウトボードとデジタルコンソールDSPでの違い
4	ミキシングイメージ①	ステレオ感とモノラル感 ・イメージシート ・ライブとパッケージ
5	ミキシングイメージ②	イコライジング ・EQとフィルターの違い ・効果的な使用法 ・失敗例
6	ミキシングイメージ③	空間確保 ・ステレオ感と位相 ・位相ずれによる障害
7	ミキシングイメージ④	音程感 ・高くも低くも無い音程とは？ ・高音と低音のバランス
8	ミキシングイメージ⑤	まとめ ・効果的なミキシング目標 ・場面に応じた対処法
9	MA①	プリプロとポストプロ ポストプロダクションの仕組み
10	MA②	タイムコード ・タイムコードの扱い ・VTRとMTRの同期 ・ドロップフレームの意味
11	MA③	MAテクニック ・SEとBGM ・MEと台詞
12	MA④	ミキシング ・ステレオとモノラル ・サラウンド
13	MA⑤	映画とテレビの違い 総まとめ
14	テスト	後期内容から
15	テスト返却	解答の解説

授業科目		授業時数
音響実習		180
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
藤原 成史 他 レコーディングをはじめ、ラジオやテレビ音声のエンジニアからディレクションに至るまで現場経験が豊富。その他イベント制作やソーシャルメディアなどへの情報発信などエンタメ業界に幅広く関わりをもっている。		
前 期		
到達目標		
PAのセッティングとオペレーション ミキシングコンソールと周辺機器の取り扱い		
評価方法		
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・ その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	音響エンジニアの心構え 音響エンジニアの実際の仕事内容の説明、及び一年間受講していくにあたり将来どんなエンジニアになりたいのか？など学生との意思確認を行う。	
2	ミキシング Dr.&Ba.ミックスをリズムムセクションのバランスを編集する。	
3	前回行ったDr.&Ba.]に上モノ入れてミックスを行い2MixまでDryの状態まで仕上げる。	
4	小規模PAシステムのセッティング1 一年時の復習として、PAシステムのセッティングを確実に覚える。また、時間を計ってセッティングをし、セッティングをする際の注意点を守り、マイクからスピーカーまでの信号の流れを確実に覚える。	
5	機器の取り扱い、信号の流れやグラフィックイコライザーの特性を学び、小規模システムのスピーカーのチューニングを行う。	
6	PAシステムのセッティング マルチBOXの構造とその役割に関することやケーブルに関することやマルチウェイスピーカーシステムの仕組みを学ぶ。INPUT数を増やしてのステージセッティングを行い、注意する点を学ぶ。スピーカーのスタッキングする際の注意点を学ぶ。	
7	ステージモニターセッティング フロント卓、モニター卓と分岐をし、結線などを覚えると共にモニターのチューニングを学んでいく。	
8	デジタルミキサーの取り扱い デジタルミキサーの基本的な概念、操作方法を学んでいく。	
9	PAシステムのセッティング1 フロント、モニター、ステージとポジション分けをする。各ポジションの役割を学んでいく。PA現場でよく使用される周辺機器の取り扱いを学んでいく。	
10	PAシステムのセッティング2 フロント、モニター、ステージとポジション分けをする。各ポジションの役割を学んでいく。PA現場でよく使用される周辺機器の取り扱いを学んでいく。	
11	ミキシング1 課題の曲のMixをDryの状態まで完成させる。	
12	ミキシング2 課題の曲のMixをDryの状態まで完成させる。	
13	ミキシングテスト テスト用の課題曲のMixを1曲完成させる。 ※Dryで	
14	テスト採点 全員でMixを聴き比べ、採点を行う。	
15	テスト結果返却 前期総括・復習	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・ 実習	
授業概要	
音響機器の設営、操作やホール規模のPAの仕込み、チューニングなど実習します。またミキシングは1人1台のデジタルコンソールを使用し、音作りやバランス、エフェクター操作を学びます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
PAのセッティングとオペレーション ミキシングコンソールと周辺機器の取り扱い	
評価方法	
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・ その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	前期の復習 INPUT、モニター、アウトシステム等のsetting、ミキサー、周辺機器の操作方法の復習を行う。
2	PA実習 ドラム、ベースパートのみPAする。その際セッティング方法、マイキングなど注意点を学ぶ。
3	PA実習 ドラム、ベースパートのみPAする。その際セッティング方法、マイキングなど注意点を学ぶ。
4	ミキシング 各機器のセッティング、レファレンスを行う。 課題曲を使用し、Dynamics系、EQ、Panlにあわせて空間系Fx (Rev.Delay)も使用してのMixを行う
5	ミキシング 各機器のセッティング、レファレンスを行う。 課題曲を使用し、Dynamics系、EQ、Panlにあわせて空間系Fx (Rev.Delay)も使用してのMixを行う
6	ミキシング 前回に引き続き、課題曲を使用し、Dynamics系、EQ、Panlにあわせて空間系Fx (Rev.Delay)も使用してのMixを行う
7	ミキシングテスト テスト用の課題曲のMixを1曲完成させる。 DelayやRevなどのオーダーを受けて、リアルタイムで機器を操作し2Mixとして録音をする。
8	テスト採点 全員でMixを聴き比べ、採点を行う。
9	PA実習 さまざまなパターンでのセッティングができるよう実践しながら学んでいく。
10	PA実習 さまざまなパターンでのセッティングができるよう実践しながら学んでいく。
11	PA実習 さまざまなパターンでのセッティングができるよう実践しながら学んでいく。
12	ミキシングテスト テスト用の課題曲のMixを1曲完成させる。 DelayやRevなどのオーダーを受けて、リアルタイムで機器を操作し2Mixとして録音をする。
13	ミキシングテスト テスト用の課題曲のMixを1曲完成させる。 DelayやRev、スイッチングなどのオーダーを受けて、リアルタイムで機器を操作し2Mixとして録音をする。
14	テスト採点 全員でMixを聴き比べ、採点を行う。
15	テスト結果返却 1年間の総括

授業科目		授業時数
企画制作		60
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
藤原 成史 レコーディングをはじめ、ラジオやテレビ音声のエンジニアからディレクションに至るまで現場経験が豊富。その他イベント制作やソーシャルメディアなどへの情報発信などエンタメ業界に幅広く関わりをもっている。		
前 期		
到達目標		
今までの経験を生かし、イベント全体の流れと進め方を再認識していく。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	イベント制作 2年生の企画制作は、イベント制作者としてのものの考え方を中心に進めて行く。授業内で制作していくイベントも含めて、クラス全員が、担当＆資料作成にも対応できるようにしたい。	
2	企画 企画が必要とされるものを再度考えて行く。音楽意外でも考えられるものをかたちにしていく。MEMO書きの落書きが大企画になるケースもある。	
3	出演者 イベントに出演する人たちを調べ、今後ブッキングが必要な場合は、どうしたら良いのかをしっかりと考える。Webだけで調べるのではなく、実際に電話をかけて訪ねてみよう。	
4	公演概要 イベントを実施する際の「公演概要」色んなフォームを見て、個々がシミュレーションで作成する。	
5	プレゼンテーション資料 イベント実施計画段階のプレゼン資料の制作をするための準備について学ぶ。	
6	タイムテーブル タイムテーブルは、企画段階の第一プラン(時間帯)、告知段階の第2プラン(開場／開演時間)、第3プラン(進行レベル)程度の進み具合で詳しくなっていくもの。	
7	運営マニュアル スタッフが見て全体が判る運営マニュアル。組織図、会場図、タイムスケジュール、非常時連絡先等の記載。イベントの各ポジション設定、人員配置プラン等の明記を説明。	
8	進行台本 ステージ上の作業、本番、出演～演出の最初から最後までの様子がわかる進行を記したものを確認できるようにしていく。	
9	MC台本 MCが使うことばを記した内容のものを指すが、一語一句表記するもの、ポイントのみ記載しているもの、ガイドラインのみ等、いろんなタイプのものがあります。	
10	出演者・音響・照明への対応 入り時間、場所、搬入関連、駐車場手配、楽屋、準備物、リハーサル～本番等のタイムテーブル等の確認事項も多い。これらの確実性が、迎える側の信用に繋がっていくことになる。また、イベントの演出効果、または演者に対する環境保全を考えた内容にもっていく対応を考えたい。	
11	集客への工夫 出演者自身の持つ集客力が、大きなウエイトだが、制作側の宣伝広報力やSNS含む媒体プランも影響が大きい。一般世間での実例も知ってもらいながら学んで欲しい。	
12	イベントの準備 前日・当日に関するイベント準備について色々な経験をもとに考えて行きたい。事前準備で仕事の捗り方は大きく変わります。	
13	ステージ進行 舞台装置の責任者の舞台監督、演目の総合監督としての演出家、仕込替えや演者の出入りを仕切る進行部隊、音響・照明等のスタッフ等が、協力して進める内容を再認識していく。	
14	アーティスト管理 いろんな出演者がある場合のイベントは、楽屋、衣装、出演準備項目、導線、取り巻きのスタッフ等、経験をしないと判りにくいものも多い。進行は、時間または出演順を理解して動きたい。	
15	議事録 後期には、ディレクターとして色々なイベントに関わっていく。その打ち合わせ等の記録を残すようにしていく。※議事録作成	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
ライブイベントの企画制作をする実習です。学内の様々な施設を使い、ライブイベントを実施することにより、総合スタッフで学ぶ照明・音響・映像各分野の連携を理解することが出来ます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
自分たちが企画して進めるもの、他者が企画したものを理解して進めるものの違いを認識して問題無く制作者として稼働出来る人材を作る。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	
1	いろんなイベントに参加 後期は、クラスではなく各学生がグループまたは個人で、自分たちが企画していない色々なイベントに参加、ディレクティングやイベント補助を行います。
2	他イベント参加FOLLOW ①イベント組織の確認 参加した場合、自分に任せられる仕事、そのリーダー、組織の位置等を意識できる状態で動きます。
3	他イベント参加FOLLOW ②学園祭 自身のクラスの出展コンテンツもあるとは思いますが、他の専攻や他の有志団体に参加してプランニング等の実力を試していきます。
4	他イベント参加FOLLOW ③学校紹介イベント (土・日)に開催されるオープンキャンパスに参加することで、その目的や状況を理解していきます。
5	他イベント参加FOLLOW ④他専攻イベント 他専攻とのコミュニケーションができる状況を取ることが、大きな勉強に繋がってきます。他から「何故かいつも手伝ってくれる。」と認められることは、社会的にも大きな貢献度を表していく可能性があります。
6	他イベント参加FOLLOW ⑤学外イベント 外部研修等の経験を積むことで、いろんな進め方や考え方を理解出来ます。「郷に入っては郷に従え」的に仕事ができれば怖いもの無しです。
7	卒業コンサート制作 ①情報整理 後期終わりに行われる卒業コンサートに向かって、昨年VTRや先輩から情報送りを確認しながら、今年度の企画会議を行う。個々のプレゼン資料の制作等も行い次週に検討。
8	②企画会議～方向性の決定 コンサート全体の方向性や特別企画、演出プラン等を考えながら大枠を詰める。それに、宣伝できる「キーワード」「コピー」「タイティング」「キャラクター」等の媒体用データを準備
9	③媒体制作スタート ●出演者募集を表すもの ●イベント実施を知らせるもの 紙、SNS、放送、映像等、学内で表すことが出来るあらゆるものに担当別で挑戦していく。大きな目的としてイメージの統一、大量の手配。
10	④募集開始
11	⑤進行プラン及びタイムスケジュール、当日準備物 MC、出演数、スタート、クローズ、コンテンツ等のMeeting
12	⑥募集完了
13	⑦アーティストとのコミュニケーション 出演者の演奏状況確認とセットリスト回収や情報収集も含め、担当者が中心にコミュニケーションとして動きます。
14	⑧音響・照明資料準備 音響や照明担当者と打ち合わせを行います。特殊な内容も含めて、その進め方を理解していきます。
15	⑨運営／進行／演出プラン確認と配置 正規授業終了の1週間後にイベント開催となりますが、前日の仕込からの立ち会いや、その日の仕事の確認、当日の配置等もしっかり打ち合わせします。

授業科目		授業時数
映像制作		120
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
村上 健 映像撮影から制作、音楽制作までマルチにこなす。様々な種類の映像作品を制作することが出来る		
前 期		
到達目標		
企画書の制作方法の理解し制作技術を実践の中で身に付けていきます。また配信に関する技術・知識の習得を目指します。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ミュージッククリップ制作 班に分かれてのミュージッククリップ制作を行います。プレストからの原案の打ち合わせを行いこれから制作していく企画・構成を練ります。	
2	ミュージッククリップ制作 企画・制作としてテーマ・コンセプトの明確な選定を行います。またその重要性も解説していきます。シノプシス、アーティスト、スタッフィング等の決定をし内容についても打ち合わせていきます。	
3	ミュージッククリップ制作 コンテの作成、各セクションプランの案出し、重要シーンの必要テクニックの方法模索、手配物の段取り等、制作に必要な調整を行っていきます。	
4	ミュージッククリップ制作 香盤表の作成を行い撮影においてのセクションごとの技術的リハーサル等撮影に向けて、解説、調整をしていきます。また撮影以外の必要素材(静止画・デザイン物)の段取りも組んでいきます。	
5	ミュージッククリップ制作 撮影を行っていきます。その際に手順、構図、ライティング等技術的な面と演出、背景の映りこみ等の演出面と合わせて解説、実習していきます。	
6	ミュージッククリップ制作 前回に引き続き、撮影を行っていきます。その際に編集セクション担当は必要に応じて撮影以外の必要素材の作成も行っていきます。	
7	ミュージッククリップ制作 撮影した素材のラッシュ、キャプチャ、オフライン編集を行います。エフェクト必要シーンはアフターエフェクトにてエフェクト加工していきます。	
8	ミュージッククリップ制作 アフターエフェクト演習として3Dレイヤーの平面3Dアニメーションの解説、演習を行います。キーフレーム管理の理解も合わせて学習していきます。	
9	ミュージッククリップ制作 ミュージッククリップ完成に向けオンライン編集と最終調整を行います。アフターエフェクトで加工した素材も合わせて作品を完成させます。	
10	ミュージッククリップ制作 完成したミュージッククリップの試写を行います。各班の作品を視聴し感想や意見を交換します。また、まとめとして一連の作業についての疑問点の解説、復習を行います。	
11	DVDオーサリング 前回までに作成したミュージッククリップをDVDに書き出す為にDVDオーサリングを学びます。その為の基本的知識の解説を行います。またWEBIに関してなど関連基礎知識もあわせて学習します。	
12	DVDオーサリング メニュー画面の作成、ボタン、チャプター設定等DVD制作を進めながらMPEGの形式や圧縮についてやストーリーミング等の知識も解説していきます。	
13	DVDオーサリング フォトショップを使用してのメニュー、ボタン作成、またリンクの設定等のDVDオーサリングの作業を進めていきます。	
14	DVDオーサリング 最終調整後書き出しを行います。完成後試写を行い出来上がりについてディスカッションを行います。	
15	卒業制作 企画 卒業制作として企画原案のミーティングを行います。どのような作品にするのか話し合います。またスタッフィングも合わせて打ち合わせていきます。	

授業の方法	
講義 ・ 演習 ・ 実験 ・ 実技 (実習)	
授業概要	
映像の企画・撮影・編集を学習します。企画書・絵コンテ作成・スケジュール管理などの制作進行や構図、カメラ操作、静止画素材の加工、動画編集ソフトの操作、カット割り等知識を身につけます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
目的に対しての演出効果を企画、また伴う技術的工夫をチームワークの中で実践できる様になることを目指します。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	卒業制作 企画 シナリオを決定する為にすり合わせを行います。各セクションからの意見を考慮し、コンテに落とし込んでいきます。合わせて企画書のまとめとしての解説も行っていきます。
2	卒業制作 企画 香盤表の作成を行い撮影においてのセクションごとの技術的リハーサル、制作的な手配等、撮影に向けて、解説、調整をしていきます。
3	卒業制作 撮影 香盤表の作成を行い撮影においてのセクションごとの技術的リハーサル等撮影に向けて、解説、調整をしていきます。
4	卒業制作 撮影 撮影を行っていきます。その際に手順、構図、ライティング等技術的な面と演出、背景の映りこみ等の演出面と合わせて解説、実習していきます。
5	卒業制作 素材仕込み 撮影に合わせてその他の必要素材(静止画・デザイン物)の作成を行っていきます。
6	卒業制作 音声・SE収録 作品に必要な音素材を収録したいいきます。またその方法を解説し編集、MAでどのように活用するのかを意識しながら収録していきます。
7	卒業制作 編集 撮影した素材のラッシュ、キャプチャ、オフライン編集を行います。エフェクト必要シーンはアフターエフェクトにてエフェクト加工していきます。
8	卒業制作 編集 今まで学習したソフトを活用して編集作業を行います。その際の技術的な事柄を実践的に解説します。また今までの復習を合わせて行っていきます。
9	卒業制作 編集 今まで学習したソフトを活用して編集作業を行います。その際の技術的な事柄を実践的に解説します。また今までの復習を合わせて行っていきます。
10	卒業制作 編集 今まで学習したソフトを活用して編集作業を行います。その際の技術的な事柄を実践的に解説します。また今までの復習を合わせて行っていきます。
11	卒業制作 音編集 MA作業として収録した音の挿入や音源の編集、また素材として出来上がった音を映像に重ねていきます。
12	卒業制作 音編集 MA作業として最終的な各種調整を行っていきます。その作業でのポイント、疑問を解説しながら実践的に学習していきます。
13	卒業制作 マスター制作 マスターとしてテープメディアに書き出します。そのフォーマットの解説等、制作のまとめとして重要点の確認、復習を行っていきます。
14	卒業制作 DVD制作 今まで制作した作品をDVDとしてまとめます。その際にDVDオーサリングの復習、さらに詳細技術、知識の解説を行います。
15	卒業制作 DVD制作 出井上がつたDVDを試写します。また2年間のまとめとして復習、疑問点の解説を行います。

授業科目		授業時数
照明実習		120
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
松井 智恵美 照明センスに加え、色彩を使いこなすイラストレーターでもあるため、高いアーティスト的な感覚とともに技術や知識を学生にも伝えてくれる教育をしてくれる		
前 期		
到達目標		
イントレ、トラスなどの仮設仕込みの習得 仮設電源ユニットの理解		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	カウンターウエイト方式吊り物昇降機構①	
2	カウンターウエイト方式吊り物昇降機構②	
3	イントレ①	
4	イントレ②	
5	トラス①	
6	トラス②	
7	仮設電源ユニット①	
8	仮設電源ユニット②	
9	仮設照明①	
10	仮設照明②	
11	ムービングライト①	
12	ムービングライト②	
13	前期試験対策	
14	前期試験実施予定日	
15	前期のまとめ	

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
照明器具の取り扱いや、調光操作卓の操作方法や照明プランや仕込みを学びます。仮設照明で必要となるイントレ、トラスなどのセッティング方法や仮設電源の取り方も学びます。 <実務経験のある教員等による授業科目>		
使用教材:革手袋		
後 期		
到達目標		
プランニングから仕込み、シュート、オペレーション、ぼらし、までの流れの理解、技術の習得		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	複合照明①	
2	複合照明②	
3	複合照明③	
4	プランニング	
5	学生自身による照明プラン仕込み①	
6	学生自身による照明プラン仕込み②	
7	学生自身による照明プラン仕込み③	
8	学生自身による照明プラン仕込み④	
9	学生自身による照明プラン仕込み⑤	
10	学生自身による照明プラン仕込み⑥	
11	学生自身による照明プラン仕込み⑦	
12	学生自身による照明プラン仕込み⑧	
13	後期試験対策	
14	後期試験実施予定日	
15	2年間のまとめ	

授業科目		授業時数
照明工学		60
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
野沢 瞳 確実性をモットーとした作業手順を伝授する。現場でのあらゆるトラブルに精通しており、その説明は具体的に理解しやすい。		
前 期		
到達目標		
発光原理、色についての知識		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	さまざまなランプの種類 白熱電球・ハロゲン電球・放電ランプ・HID等のランプの種類について学習します	
2	白熱電球の構造 白熱電球と放電灯の違いを知るためにまず白熱灯の発達についてやタングステン電球の特性、構造を解説し学ぶ	
3	ハロゲンサイクルの原理 前週の続きで同じ白熱灯の中のハロゲン電球の特性、構造、種類を解説し学ぶ	
4	放電ランプ タングステン電球、ハロゲン電球などの白熱灯とは構造が違う放電灯についてその種類や構造、特性を解説し学ぶ	
5	放電の原理 水銀ランプ・アーク・プラズマの放電・発光の原理について解説します。また、蛍光ランプ・水銀ランプの違い・点灯方法・発光方法・点灯後の状態についても学ぶ	
6	メタルハライドランプについて メタルハライドランプとはどういったものなのか詳しく解説し、メタルハライドランプの種類についても説明します	
7	キセノンランプについて アーク放電によって発光するキセノンランプについて解説します。また、キセノンアークショートランプの特徴として、スペクトル・始動から安定までの時間・ガス圧・指導方法にいたるまでを詳しく解説します	
8	光・目の構造について 人間の光を感じる部分として目がありどのようにして光を感じ取るかを知るために光と目の関係、目の構造、順応性、残像について詳しく解説します	
9	光について 光の単位・照度と距離の関係について学ぶ。また、光の反射・透過・屈折(レンズを使用した例を元に)を解説します	
10	光について 光の単位・照度と距離の関係について学ぶ。また、光の反射・透過・屈折(レンズを使用した例を元に)を解説します	
11	色について 物体色と光源色・色の3要素について学ぶ。また、加法混色・減法混色についても表を使用して解説します	
12	色について 物体色と光源色・色の3要素について学ぶ。また、加法混色・減法混色についても表を使用して解説します	
13	前期のまとめ 前期で学習した照明工学の基礎についてもう一度復習し、後期からの授業に備える	
14	前期試験	
15	前期試験の返却と解説	

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
舞台用語や歴史、直流・交流電流などの電気的な知識を学びます。その他、調光操作卓の仕組み、電子工学について知ることにより、実習など実技作業の学びが定着するようになります。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材:舞台テレビジョン照明 基礎編		
後 期		
到達目標		
DMX信号、三段プリセット調光操作卓やムービング卓の機能の習得		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	電力について	電力・電力量の計算について解説します。同時に練習問題を通して学習していきます。また、電気の3作用(磁気、発熱、化学)についても説明します
2	負荷の接続	直列接続を復習しながら抵抗(負荷)についても学び、それについての練習問題を行います
3	負荷の接続	並列接続を復習しながら抵抗(負荷)についても学び、それについての練習問題を行います
4	小テスト	これまでの内容について、復習を行い、それについての小テストを行います
5	小テスト答え合わせ	前回の小テストの答え合わせを行い、それについての解説、補足を行います
6	コネクター・プラグの許容電流、許容電圧	さまざまな種類のコネクター・プラグの許容電流、許容電圧について説明します。また、電線の許容電流、キャブタイヤケーブルの許容電流についても学習します また電圧降下についても解説します
7	交流	交流電流についての説明。また、ここでは交流が使用される利点についても解説します
8	交流における電圧・電流・抵抗の関係	抵抗・コイル・コンデンサーに交流電圧を加えた時に流れる電流について学びます
9	配電方式①	単相交流・三相交流を元に交流電源の配電方式について図を使って説明します。交流電源の中でもっともシンプルな単相二線式と単相三線式の配電方式について学びます
10	配電方式②	交流電源の中でもっともシンプルな単相二線式と単相三線式の配電方式について学びます。交流電源の中でもっとも効率の良い三相三線式・三相四線式の配電方式について学びます
11	仮設電源	常設の調光ユニットが足りない場合や、常設ユニットがない野外イベントなどの説明を入れながら、仮設電源について設営・撤収の段取り等を学びます
12	仮設電源	常設の調光ユニットが足りない場合や、常設ユニットがない野外イベントなどの説明を入れながら、仮設電源について設営・撤収の段取り等を学びます
13	試験範囲説明	これまでに学んだ内容を復習し、後期試験の範囲の解説を行います
14	後期試験	
15	答え合わせ	後期試験の返却を行い、内容についての解説、補足などを行っていきます

授業科目		授業時数
パソコン演習		60
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
山崎 美樹 いろんなアイデアを検討して、より良い作品創りを指導。イベント媒体としてのスケジュールに切に沿った納品までを教育してくれる		
前 期		
到達目標		
Illustratorの基本操作を習得する Photoshopの基本操作を習得する		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	Illustrator基本ツール アドビ社のIllustratorについて基本的な内容を勉強していく。ディスプレイでの表示や作業デスクトップの仕様を触りながら確認していく。	
2	ツールの基本 図形ツールを使用して簡単な絵を作成していく。マウスやカーソルとの感覚的なものも同時に慣れるようにしていく。	
3	文字ツール 図形・文字ツールを使用dw名刺を作成。文字サイズ・フォントや横書き・縦書き等の操作を理解する。	
4	レイヤー操作と構造① 同一軸に現れるレイヤーの切替を行いながら、部署・役職・氏名等が違う名刺を9枚綴りを作成していく。	
5	レイヤー操作と構造② (4週目から継続)仕上げ	
6	ペンツール作業① レイヤーに下絵を入れ込み、ペンツールを仕様して、上から別レイヤーに書き取っていく作業を行い、滑らかな線を描く練習をする。	
7	ペンツール作業② (6週目から継続)	
8	Photoshop[着色] 6、7週の下絵画像をPhotoshopに取り込み、着色する作業を行う。	
9	イラストレーション作品制作 6、7、8週の線画と画像を統合、仕上げ	
10	地図作成 アビバランスを使い分け、地図を描く	
11	案内用フライヤー作成① テキスト原稿から文字起こし、画像配置や地図を挿入、ライブフライヤーを作成していく。	
12	案内用フライヤー作成② (11週目から継続)	
13	案内用フライヤー作成③ (11週目から継続)仕上げ	
14	ロゴデザイン タイトル等のロゴデザイン等で使えるような縁取り、影、囲み等をつける練習を行う。	
15	まとめ 1～14週で使用したツールを駆使しての試験課題	

授業の方法		
講義 (演習) 実験・実技・実習		
授業概要		
パソコンを使用し、ビジネスソフトの使用方法を学びます。様々な書式、表やグラフの作成、プレゼンテーションの資料などを制作します。また、DTPでは業界標準のIllustratorやPhotoshopの基本操作を学びます。 <実務経験のある教員等による授業科目>		
使用教材:		
後 期		
到達目標		
誌面、CDジャケットのデータ制作を行う 作品の完成度を高める		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	Photoshop [簡単な画像調整] Photoshopで画像を切り取り、統合保存。Illustrator上でトリミングしてカードをデザインをしていく。	
2	制作作業① (1週目から継続)	
3	制作作業② (1週目から継続)仕上げ	
4	デスクトップの整理 Illustratorの移動パレットを使い、効率よくデザインする方法を学ぶ。PCディスプレイの大きさによっても、作業のスムーズさは変わるので、自分の視覚範囲の理解は意識したい。	
5	テキスト原稿流し込み作業 (4週目から継続)ダミー文字で組んだデザインに、テキスト原稿を流し込む。	
6	Photoshop[配置と加工] (4週目から継続)Photoshopで配置画像に着色。色々な色彩調整等も学んでいく。	
7	Illustrator/Photoshop 同時進行作業 (4週目から継続)IllustratorとPhotoshopを同時進行させる、仕上げ作業	
8	雑誌広告① テキスト原稿から文字起こし、使用画像を自身が選り雑誌広告を作成していく。画一化されやすいデザインの中、個々のバランス感覚やレイアウト感を磨いていく。	
9	雑誌広告② (8週目から継続)	
10	雑誌広告③ (8週目から継続)仕上げ	
11	素材を取り込む作業 絵素材を使用しながらクリスマスカードをデザインしていく。季節に現れるカラーリング等も学んで行く。	
12	CD制作① CDジャケット両面、サイドキャップ、盤面をデザインする。リアルな感覚を持ってもらうために、outlineされたロゴや指定素材は配布して、バランスを磨いていく作業を中心に行う。	
13	CD制作② (12週目から継続)	
14	CD制作③ (12週目から継続)試験課題として提出	
15	まとめ 前期・後期の内容を復習	

授業科目		授業時数
一般教養		60
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
山田 敏子 「現代マナーズ研究会」代表。ビジネスマナー研修を軸に関西を中心企業・団体・大学等で人材育成に携わる		
前 期		
到達目標		
エントリーシートや履歴書で自己アピールできる 社外文書形式でオリジナルの添え状や御礼状が書ける 面接の場で美しい立ち居振る舞いや受け答えができる		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	授業概要の説明・動機付け この授業の趣旨、目的を理解し、学生生活と職場の違いや仕事の取り組み方について説明し、この1年で達成したい目標を設定する。	
2	社外文書の書き方 履歴書等、企業へ書類を郵送する際のカバーレター(添え状)を決められた形式に沿って書けるようにする。	
3	封書・はがき・ビジネスメールの書き方 企業へ郵便物やメールを送る際に、正しいルールに沿った書き方ができるようになる。	
4	SPI・適性検査・筆記対策 本番で戸惑わないよう事前に演習を行う。	
5	面接のマナー 面接室での立ち振る舞いや言葉遣い、座席の順位などを学び、就職活動時の面接に備える。	
6	模擬面接 質疑応答を交えながら実践形式で行い、各人に合ったアドバイスを受け、注意点や問題点を出し合い深める。	
7	自己診断チェック 人物本位と言われる面接で自分自身について聞かれる質問を想定し、いかにポイントをおさえてアピールするかを学ぶ。	
8	企業診断・学生診断チェック 会社に関してどういった項目を調べ準備すれば良いか、また学生生活について聞かれるであろう内容について準備する。	
9	一般教養チェック・身だしなみ他 当日の注意 一般教養に関して聞かれる内容の準備、第一印象の重要性、当日の持ち物や控え室などでの注意事項を学ぶ。	
10	名刺交換 名刺の渡し方や受け方、名刺を切らしている時などの対処法の仕方等、実践を取り入れながら学習する。	
11	敬語の基本 ビジネスにふさわしい言葉や尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い分けを学び、実践できるよう理解する。また、二重敬語などの誤った使い方や、ビジネス上での人の呼び方を学び実際に場面を設定して実践する。	
12	敬語の応用 お客様に対する接遇用語や使い方を学び、実際に場面を設定して実践し、注意点、問題点を出し合い深める。	
13	電話応対 電話対応で会社のレベルも判断されるということから正しい電話の受け方やかけ方、取次ぎ方などを説明し実践を取り入れながら学習する。	
14	前期試験実施日	
15	電話応対応用 不在時に行き届いた臨機応変なメモの作成、また苦情電話を上手に受け、固定客につなげる手法を実技を取り入れながら学習する。	

授業の方法	
講義 演習 実験・実技・実習	
授業概要	
社会人としての一般教養を学びます。挨拶や敬語、電話応対、名刺交換などのビジネスマナーや、履歴書の書き方や面接など就職に役立つスキルを学習します。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を身につける 社会人としての幅広い基本スキルを身につける	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	就職活動振り返り これまでの活動を振り返り、良かったところ足りなかったところを分析し、今後に活かして結果につなげる。
2	グループ面接模擬 グループ面接時での立ち居振る舞いを確認し、質疑応答を交えながら実践形式で行い、各人に合ったアドバイスを受け深める。
3	模擬面接フォローアップ① 質疑応答を交えながら実践形式で行い、各人に合ったアドバイスを受け、注意点や問題点を出し合い深める。
4	模擬面接フォローアップ② 質疑応答を交えながら実践形式で行い、各人に合ったアドバイスを受け、注意点や問題点を出し合い深める。
5	指示・命令の受け方 積極的な態度で、信頼される仕事の受け方のポイントを実技を取り入れながら学習する。
6	報告の仕方 ビジネスでは欠かせない口頭・文書による報告の仕方や信頼されるための報告のポイントを学習する。
7	コミュニケーション(エゴグラム・傾聴スキル) 公私共に他者と良い信頼関係を築くために自己の対人傾向を掴み、傾聴スキルを習得する。
8	コミュニケーション(アサーション) ビジネスでもプライベートでも自己と他者ともに尊重した意見の主張の仕方を習得する。
9	来客応対・訪問のマナー 自社にきたお客様を親切・正確・迅速・丁寧に迎え、また他社を訪問した際にもマナーに沿った振る舞いができるようになる。
10	ビジネスでの茶業のマナー 自社にきたお客様をもてなし、ホスピタリティが伝わるお茶の出し方、他社を訪問した際のいただき方を学ぶ。
11	是非知っておきたいテーブルマナー ビジネスで人と会食を共にすることは人間関係を築く上でも重要である。周囲を不快にさせない会食のマナーを身に付ける。
12	ビジネスでの贈答の心得 慶事や弔事のマナーを知り、将来仕事でも発生する場合に備え贈答の種類や贈る期間、熨斗や金封紙それぞれの使い分けを学ぶ。
13	学生と社会人の違い 顧客意識・コスト意識等、社会人としての心構えを持ち、スムーズな社会生活のスタートを切るためグループで討論しまとめて発表する。
14	後期試験実施日
15	後期試験返却と解説 立食パーティーのマナー 会社の各種行事では立食パーティーが主流である。歓談を目的とし、マナーをわきまえた振る舞いを身に付けるよう実技を交えて学ぶ。

授業科目		授業時数
イベント制作		40
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
白藤浩史 多岐にわたるイベント制作に長年携わる講師が、エンタテインメント業界、社会におけるイベントを多角的にとらえて学生に必要な知識指導する。		
前 期		
到達目標		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。 <実務経験のある教員等による授業科目>		
使用教材:		
後 期		
到達目標		
学校全体の行事として実施、各学科の特徴を生かしたかたちで成果発表を盛り込む。学年及び各学科・専攻により、制作レベルには違いはあるが、学校全体としての大きな目標を理解して進める。2年次は、後輩となる1年の指導もイベント制作の重要項目となる。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	2年目の「イベント」として昨年の反省を踏まえ、各学科が習得している内容を生かせる工夫をしていく。また、全体の動きを理解して、色んな担当を任せていく。	
2	今回のイベント趣旨やその目的等をわかりやすく解説。公募されるものの内容、学生全体で担当する具体的なものに参加していく。	
3	自分たちの参加内容をアイデア出し、企画・プランニングしていく。学科・専攻で参加するものやグループ・個人で出演やコンテンツ参加等、いろんな関わり方を知ってもらう。	
4	具体的な計画術を学んでいく。具体的にする作業内容、そこから導くチェックリスト、制作スケジュールや予算等を明確にしていく。	
5	担当別にグループや個人に依頼して割り振る考え方を持っていく。そのための期限等は、その次のスケジュールに影響を及ぼすことも学んでいく。	
6	広報的な内容にも理解を示していく。実際には、どれだけの集客を望めたのかが結果として出てくるものになるので、その集計やアンケート回収などの知識を学ぶ。	
7	具体的な用意(仕込み／準備等)を行う。担当箇所の運営にあたる人のスケジュールを作成。その担当者のチェック項目を明確にするもの等を揃えて実施運営としていく。また簡単なルール・マニュアル作りも大切な要素となる。	
8	実施運営を行い、最後の撤収作業まで責任を持って行う。その後、廃棄・保存・記録等の作業が次年度に関係してくるので、申し送り等の作業をしっかり行う。	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業科目		授業時数
業界研究		60
学年	学科	専攻
2	総合学科	総合スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
白藤浩史 多岐にわたるイベント制作に長年携わる講師が、エンタテインメント業界、社会におけるイベントを多角的にとらえて学生に必要な知識指導する。		
前 期		
到達目標		
目指す業界の幅広い仕事内容を知ってもらう。習得した知識や実技内容との関連も考えながら、業界との接点を感じてもらう。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	軽音連イベント (8)	大阪軽音連関連イベントを学内・学外のイベント会場やホールを使用して行う。2年生は各ポジションでチーフポジションの経験も積んでもらい、その担当としての責任感を育てていく。
2	就活対策講座 (8)	具体的に就職に必要な様式について学び、勤務地や企業選別も含め、企業研究の知識も学ぶ。自分の将来を決めるターニングポイントでもあるため、しっかりした意識を維持していく。
3	企画制作イベント (2)	イベントの制作・技術・運営を、もう一歩進めたかたちの実施形態で行う。スケジュール・手順・段取り・チームワーク等の問題点等も理解したい。
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
依頼される学内外のクライアント主導イベントの制作業務、ガイダンス参加、業界での必要な資格取得も率先して取り組んでいきます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
学内外での実習内容を消化しながら、他の学科との仕事の位置関係を学んで行く。自分自身が携わる部分、また協力できる部分等を意識してもらい、創り上げていく流れを体感、理解するようにする。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	芸術鑑賞 (4)
2	軽音連イベント (8)
3	企画制作イベント (2)
4	卒業コンサート (4)
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	